

平成 29 年度の献血の推進に関する計画（案）について

・ 諮問書	1
・ 平成 29 年度の献血の推進に関する計画（案）	2
・ 平成 29 年度の献血の推進に関する計画（案）新旧対照表	1 1

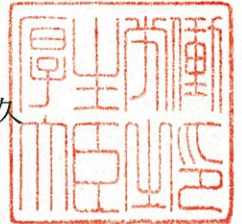
【参考資料】

・（参考資料 1）献血者数の推移	2 4
・（参考資料 2）献血率の推移（年代別）	2 6
・（参考資料 3）「献血推進 2 0 1 4」の結果について	2 8
・（参考資料 4）「献血推進 2 0 2 0」の進捗状況について	3 0
・（参考資料 5 - 1）献血者確保対策について（厚生労働省の取り組み）	3 4
・（参考資料 5 - 2）献血者確保対策について（日本赤十字社の取り組み）	3 5
・（参考資料 6）複数回献血者及び複数回献血クラブについて	4 1
・（参考資料 7）若年層の献血者について	4 8
・（参考資料 8）青少年等献血ふれあい・若年者献血セミナー事業実施状況	6 2
・（参考資料 9）献血に係るアンケート調査結果について	6 3
・（参考資料 10）平成 27 年度けんけつ HOP STEP JUMP アンケート調査結果	8 0
・（参考資料 11）厚生労働科学研究の報告「高校生の献血意識に関する調査」	8 2

厚生労働省発薬生0301第46号
平成29年3月1日

薬事・食品衛生審議会会長
橋田 充 殿

厚生労働大臣 塩崎 恭久



諮 問 書

平成29年度の献血の推進に関する計画を定めることについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第3項において準用する同法第9条第4項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

平成 29 年度の献血の推進に 関する計画（案）

平 成 年 月 日

厚生労働省告示第 号

目次

前文	1
第1節 平成29年度に献血により確保すべき血液の目標量	1
第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項	1
1 献血に関する普及啓発活動の実施	1
① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進	
② 献血運動推進全国大会の開催等	
③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催	
④ 献血推進協議会の活用	
⑤ その他関係者による取組	
2 献血者が安心して献血できる環境の整備	4
第3節 その他献血の推進に関する重要事項	5
1 献血の推進に際し、考慮すべき事項	5
① 血液検査による健康管理サービスの充実	
② 献血者の利便性の向上	
③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進	
④ 採血基準の在り方の検討	
⑤ まれな血液型の血液の確保	
⑥ 200ミリリットル全血採血の在り方について	
2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応	6
3 災害時等における献血の確保等	6
4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価	6

平成 29 年度の献血の推進に関する計画

前文

- ・ 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 31 年法律第 160 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき定める平成 29 年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成 25 年厚生労働省告示第 247 号）に基づくものである。

第 1 節 平成 29 年度に献血により確保すべき血液の目標量

- ・ 平成 29 年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、赤血球製剤 51 万リットル、血漿^{しょう}製剤 27 万リットル、血小板製剤 17 万リットルであり、それぞれ 51 万リットル、27 万リットル、17 万リットルが製造^{しょう}される見込みである。
- ・ さらに、確保されるべき原料血漿^{しょう}の量の目標を勘案すると、平成 29 年度には、全血採血による 134 万リットル及び成分採血による 61 万リットル（血漿^{しょう}成分採血 34 万リットル及び血小板成分採血 27 万リットル）の計 195 万リットルの血液を献血により確保する必要がある。

第 2 節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成 29 年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- ・ 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進する。そのため、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、地域の実情に応じ、対象となる年齢層への啓発、献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- ・ 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解を促すとともに、献血への協力

を呼びかけることが求められる。

- ・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病気や怪我のために輸血を受けた患者や、その家族の声を伝えること等により、血液製剤が患者の医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血の正しい知識や必要性を啓発し、又はこれに協力することが必要である。

また、少子高齢社会を迎えたことによる血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を提供するとともに、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。

さらに、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、H I V等の感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。

- ・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある 400 ミリリットル全血採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。
- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催物の機会等を活用する等、積極的に取り組むことが望ましい。
- ・ 血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持する必要がある。そのため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にした上で、各世代に合わせた効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

ア 若年層を対象とした対策

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。

また、若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、SNS等インターネットを含む様々な広報手段を用いて、気軽に目に触れる機会を増やすとともに、実際に献血してもらえよう、学生献血推進ボランティア等の同世代からの働きかけや、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、実効性のある取組が必要である。

特に 10 代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り 400 ミリリット

ル全血採血が 17 歳から可能となったこと等について情報を伝え、献血者の協力を得る。

さらに、子育て中の 20 歳代後半から 30 歳代までを中心に、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、次世代の献血者を育てていくために親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、ボランティア組織と連携した親子が参加しやすい献血推進活動の実施、地域の特性に応じて採血所に託児スペースの整備を行う等、親子が献血に触れ合う機会や利用しやすい環境を設ける。

- ・ 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材、中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、関係省庁と連携しながら、都道府県、市町村及び採血事業者の協力を得て、これらの教材等の活用を通じ、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。
- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。
- ・ 都道府県及び市町村は、若年層の献血への関心を高めるため、採血事業者が実施する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を、積極的に活用してもらえよう学校等に情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。
- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血推進ボランティアとの更なる連携を図り、学校等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になろうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

イ 企業等における献血の推進対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。
- ・ 採血事業者は、企業等に対して、「献血セミナー」を実施し、正しい知識の普及啓発を図る。
- ・ 国及び採血事業者は、企業等に対して、特に 20 歳代から 30 歳代までの労働者の献血促進について協力を求める。

ウ 複数回献血者対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の継続的な協力を十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対

し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人を表彰する。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、都道府県献血推進協議会、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関、ボランティア組織等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的に開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。
- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者、血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮する等、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。
- ・ 採血事業者は、特に初回献血者が抱いている不安等を払拭することはもとより、採血の度ごとに、採血の手順や採血後に十分な休憩をとる必要性、気分が悪くなった場合の対処方法等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、

献血者の安全確保を図る。

- ・ 採血事業者は、採血所について、地域の特性に合わせた献血者に安心、やすらぎを与える環境作り等を行い、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。
- ・ 国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・ 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。また、低血色素により献血ができなかった献血申込者に対して、栄養士等による健康相談を実施する。
- ・ 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実は献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・ 採血事業者は、献血者の利便性に配慮しつつ、安全で安心かつ効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血、献血者が利用しやすい献血受入時間帯の設定及び子育て世代に対応した託児スペースの整備その他の献血受入体制の一層の整備及び充実を図る。
- ・ 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動採血車による採血等の日程を設定し、そのために公共施設を提供すること等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。また、採血事業者とともに、献血実施の日時や場所等について、住民に対して献血への協力が得られるよう、十分な広報を行う必要がある。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底、H I V等の感染症の検査を目的とした献血を防止するための措置等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するた

め、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。

- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

⑥ 200 ミリリットル全血採血の在り方について

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、血液製剤の安全性及び製造効率並びに医療機関の需要の観点から、献血を推進する上では、400 ミリリットル全血採血を基本として行う必要がある。
- ・ しかしながら、将来の献血基盤の確保という観点からは、若年層の献血推進が非常に重要であることから、若年層に対しては、学校と連携して「献血セミナー」を実施する等、献血を周知啓発する取組を積極的に行うとともに、特に高校生等の献血時には、400 ミリリットル全血採血に献血者が不安がある場合は 200 ミリリットル全血採血を推進するなど、できる限り献血を経験してもらうことが重要である。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国の献血推進本部設置要綱（平成 17 年 4 月 1 日決定）及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行う。あわせて、製造販売業者等の関係者と連携し、献血後、製造された血液製剤が円滑に医療機関に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れを行う。
- ・ さらに、広域的な大規模災害の発生に備え、国及び採血事業者は、災害時等における献血血液の製剤化に支障を来さないための設備の整備を実施する必要がある。
- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、災害時等に備えた複数の通信手段の確保や移動採血車等の燃料の確保が確実に行われるよう対策を講ずる必要がある。

4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的及び長期的な効果並びに進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直すことが必要である。
- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認

識を共有し、必要な措置を講ずる。

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評価を行い、献血の推進に活用する。

平成 29 年度の献血の推進に関する計画（案） 新旧対照表

（傍線部分は改正部分）

平成 29 年度献血推進計画（案）	平成 28 年度献血推進計画
前文 - 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 31 年法律第 160 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき定める平成 29 年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成 25 年厚生労働省告示第 247 号）に基づくものである。 第 1 節 <u>平成 29 年度に献血により確保すべき血液の目標量</u> - 平成 29 年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、<u>赤血球製剤 51 万リットル、血漿製剤 27 万リットル、血小板製剤 17 万リットルであり、それぞれ 51 万リットル、27 万リットル、17 万リットルが製造される見込みである。</u> - さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成 29 年度には、<u>全血採血による 134 万リットル及び成分採血による 61 万リットル（血漿成分採血 34 万リットル及び血小板成分採血 27 万リットル）の計 195 万リットルの血液</u>を献血により確保する必要がある。	前文 - 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 31 年法律第 160 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき定める平成 28 年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成 25 年厚生労働省告示第 247 号）に基づくものである。 第 1 節 <u>平成 28 年度に献血により確保すべき血液の目標量</u> - 平成 28 年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、<u>赤血球製剤 52 万リットル、血漿製剤 27 万リットル、血小板製剤 17 万リットルであり、それぞれ 52 万リットル、27 万リットル、17 万リットルが製造される見込みである。</u> - さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成 28 年度には、<u>全血採血による 138 万リットル及び成分採血による 63 万リットル（血漿成分採血 31 万リットル及び血小板成分採血 32 万リットル）の計 201 万リットルの血液</u>を献血により確保する必要がある。

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成 29 年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- ・ 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進する。そのため、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、地域の実情に応じ、対象となる年齢層への啓発、献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- ・ 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成 28 年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- ・ 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進する。そのため、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、地域の実情に応じ、対象となる年齢層への啓発、献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- ・ 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一

層の理解を促すとともに、献血への協力を呼びかけることが求められる。

- ・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病気や怪我のために輸血を受けた患者や、その家族の声を伝えること等により、血液製剤が患者の医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血の正しい知識や必要性を啓発し、又はこれに協力することが必要である。

また、少子高齢社会を迎えたことによる血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を提供するとともに、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。

さらに、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、H I V等の感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。

(削除)

- ・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある 400 ミリリットル全血

層の理解を促すとともに、献血への協力を呼びかけることが求められる。

- ・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病気や怪我のために輸血を受けた患者や、その家族の声を伝えること等により、血液製剤が患者の医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血の正しい知識や必要性を啓発し、又は協力することが必要である。

また、少子高齢社会を迎えたことによる血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を提供するとともに、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。

さらに、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、H I V等の感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、平成 22 年 1 月 27 日に実施された英国滞在歴による献血制限の見直し及び平成 23 年 4 月 1 日に施行された採血基準の改正について、引き続き国民に対して十分に広報を行い、献血への協力を求める必要がある。

- ・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある 400 ミリリットル全血

採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。

- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催物の機会等を活用する等、積極的に取り組むことが望ましい。
- ・ 血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持する必要がある。そのため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にした上で、各世代に合わせた効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

ア 若年層を対象とした対策

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。

また、若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、SNS等インターネットを含む様々な広報手段を用いて、気軽に目に触れる機会を増やすとともに、実際に献血してもらえよう、学生献血推進ボランティア等

採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。

- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催物の機会等を活用する等、積極的に取り組むことが望ましい。
- ・ 血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持する必要がある。そのため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にしたうえで、各世代に合わせた効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

ア 若年層を対象とした対策

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。

また、若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、SNS等インターネットを含む様々な広報手段を用いて、気軽に目に触れる機会を増やすとともに、実際に献血してもらえよう、学生献血推進ボランティア等の同世代

の同世代からの働きかけや、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、実効性のある取組が必要である。

特に 10 代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り 400 ミリリットル全血採血が 17 歳から可能となったこと等について情報を伝え、献血者の協力を得る。

さらに、子育て中の 20 歳代後半から 30 歳代までを中心に、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、次世代の献血者を育てていくために親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、ボランティア組織と連携した親子が参加しやすい献血推進活動の実施、地域の特性に応じて採血所に託児スペースの整備を行う等、親子が献血に触れ合う機会や利用しやすい環境を設ける。

- ・ 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材、中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、関係省庁と連携しながら、都道府県、市町村及び採血事業者の協力を得て、これらの教材等の活用を通じ、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。
- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。

からの働きかけや、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、実効性のある取組が必要である。

特に 10 代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り 400 ミリリットル全血採血が 17 歳から可能となったこと等について情報を伝え、献血者の協力を得る。

さらに、子育て中の 20 歳代後半から 30 歳代を中心に、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、次世代の献血者を育てていくために親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、ボランティア組織と連携した親子が参加しやすい献血推進活動の実施、地域の特性に応じて採血所に託児スペースの整備を行う等、親子が献血に触れ合う機会や利用しやすい環境を設ける。

- ・ 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材、中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、関係省庁と連携しながら、都道府県、市町村及び採血事業者の協力を得て、これらの教材等の活用を通じ、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、若年層の献血への関心を高めるため、採血事業者が実施する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を、積極的に活用してもらえよう学校等に情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。
- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献

- ・ 都道府県及び市町村は、若年層の献血への関心を高めるため、採血事業者が実施する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を、積極的に活用してもらえるよう学校等に情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。
- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血推進ボランティアとの更なる連携を図り、学校等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になろうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

(削除)

イ 企業等における献血の推進対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを

血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。

- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血推進ボランティアとの更なる連携を図り、学校等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になろうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

イ 50 歳から 60 歳代を対象とした対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、年齢別人口に占める献血者の率が低い傾向にある 50 歳から 60 歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図る。また、血小板成分採血について、採血基準の改正により、男性に限り 69 歳まで（65 歳から 69 歳までの者については、60 歳から 64 歳までの間に献血の経験がある者に限る。）可能となったことについて情報を伝え、献血者の確保を図る。

ウ 企業等における献血の推進対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを

行う。

- ・ 採血事業者は、企業等に対して、「献血セミナー」を実施し、正しい知識の普及啓発を図る。
- ・ 国及び採血事業者は、企業等に対して、特に 20 歳代から 30 歳代までの労働者の献血促進について協力を求める。

ウ 複数回献血者対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の継続的な協力を十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人を表彰する。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、都道府県献血推進協議会、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

行う。

- ・ 採血事業者は、企業等に対して、「献血セミナー」を実施し、正しい知識の普及啓発を図る。
- ・ 国及び採血事業者は、企業等に対して、特に 20 歳代から 30 歳代の労働者の献血促進について協力を求める。

エ 複数回献血者対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人を表彰する。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関、ボランティア組織等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的を開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。
- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者、血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮する等、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関、ボランティア組織等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的を開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。
- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者、血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮する等、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。

- ・ 採血事業者は、特に初回献血者が抱えている不安等を払拭することはもとより、採血の度ごとに、採血の手順や採血後に十分な休憩をとる必要性、気分が悪くなった場合の対処方法等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。
- ・ 採血事業者は、採血所について、地域の特性に合わせた献血者に安心、やすらぎを与える環境作り等を行い、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。
- ・ 国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・ 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。また、低血色素により献血ができなかった献血申込者に対して、栄養士等による健康相談を実施する。
- ・ 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実は献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・ 採血事業者は、特に初回献血者が抱えている不安等を払拭することはもとより、採血の度ごとに、採血の手順や採血後に十分な休憩をとる必要性、気分が悪くなった場合の対処方法等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。
- ・ 採血事業者は、採血所における地域の特性に合わせた、献血者に安心、やすらぎを与える環境作り等、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。
- ・ 国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・ 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。また、低色素により献血ができなかった献血申込者に対して、栄養士等による健康相談を実施する。
- ・ 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実は献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・ 採血事業者は、献血者の利便性に配慮しつつ、安全で安心かつ効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血、献血者が利用しやすい献血受入時間帯の設定及び子育て世代に対応した託児スペースの整備その他の献血受入体制の一層の整備及び充実を図る。

- ・ 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動採血車による採血等の日程を設定し、そのために公共施設を提供すること等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。また、採血事業者とともに、献血実施の日時や場所等について、住民に対して献血への協力が得られるよう、十分な広報を行う必要がある。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底、H I V等の感染症の検査を目的とした献血を防止するための措置等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査す

- ・ 採血事業者は、献血者の利便性に配慮しつつ、安全で安心かつ効率的に採血を行うため、具体的には、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血及び献血者が利用しやすい献血受入時間帯の設定、子育て世代に対応した託児スペースの整備等、献血受入体制の一層の整備及び充実を図る。

- ・ 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。また、採血事業者とともに、献血実施の日時や場所等について、住民に対して献血への協力が得られるよう、十分な広報を行う必要がある。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底、H I V等の感染症の検査を目的とした献血を防止するための措置等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査す

る。

⑥ 200 ミリリットル全血採血の在り方について

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、血液製剤の安全性及び製造効率並びに医療機関の需要の観点から、献血を推進する上では、400 ミリリットル全血採血を基本として行う必要がある。
- ・ しかしながら、将来の献血基盤の確保という観点からは、若年層の献血推進が非常に重要であることから、若年層に対しては、学校と連携して「献血セミナー」を実施する等、献血を周知啓発する取組を積極的に行うとともに、特に高校生等の献血時には、400 ミリリットル全血採血に献血者が不安がある場合は 200 ミリリットル全血採血を推進するなど、できる限り献血を経験してもらうことが重要である。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国の献血推進本部設置要綱（平成 17 年 4 月 1 日決定）及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行う。あわせて、製造販売業者等

る。

⑥ 200 ミリリットル全血採血の在り方について

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、血液製剤の安全性、製造効率、医療機関の需要の観点から、献血を推進する上では、400 ミリリットル全血採血を基本として行う必要がある。
- ・ しかしながら、将来の献血基盤の確保という観点からは、若年層の献血推進が非常に重要であることから、若年層に対しては、学校と連携して「献血セミナー」を実施する等、献血を周知啓発する取組を積極的に行うとともに、特に高校生等の献血時には、400 ミリリットル全血採血に献血者が不安がある場合は 200 ミリリットル全血採血を推進するなど、出来る限り献血を経験してもらうことが重要である。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行う。併せて、製造販売業者等の

の関係者と連携し、献血後、製造された血液製剤が円滑に医療機関に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れを行う。

- ・ さらに、広域的な大規模災害の発生に備え、国及び採血事業者は、災害時等における献血血液の製剤化に支障を来さないための設備の整備を実施する必要がある。

(削除)

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、災害時等に備えた複数の通信手段の確保や移動採血車等の燃料の確保が確実に行われるよう対策を講ずる必要がある。

4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期

関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れを行う。

- ・ さらに、広域的な大規模災害の発生に備え、国及び採血事業者は、災害時等における献血血液の製剤化に支障を来さないための設備の整備を実施する必要がある。

- ・ 平成 23 年 3 月の東日本大震災により、東北地方の一部の地域（岩手県、宮城県、福島県）で献血の受入れができない状況となったが、全国の非被災地において被災地域の需要分を加えた献血血液を確保することによって、血液製剤を安定的に供給することができた。今後も、献血血液の確保に支障を来さないよう、継続的に全国的な献血の推進を図っていくことが重要である。

- ・ また、東日本大震災の際には、停電や一般電話回線（携帯回線を含む。）の輻輳により、通信手段の確保が困難となったほか、精油所等の被災や燃料の流通に支障が生じたことにより、移動採血車等の燃料の確保も困難となった。このことから、国、都道府県、市町村及び採血事業者は、災害時等に備えた複数の通信手段の確保や燃料の確保が確実に行われるよう対策を講ずる必要がある。

4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期

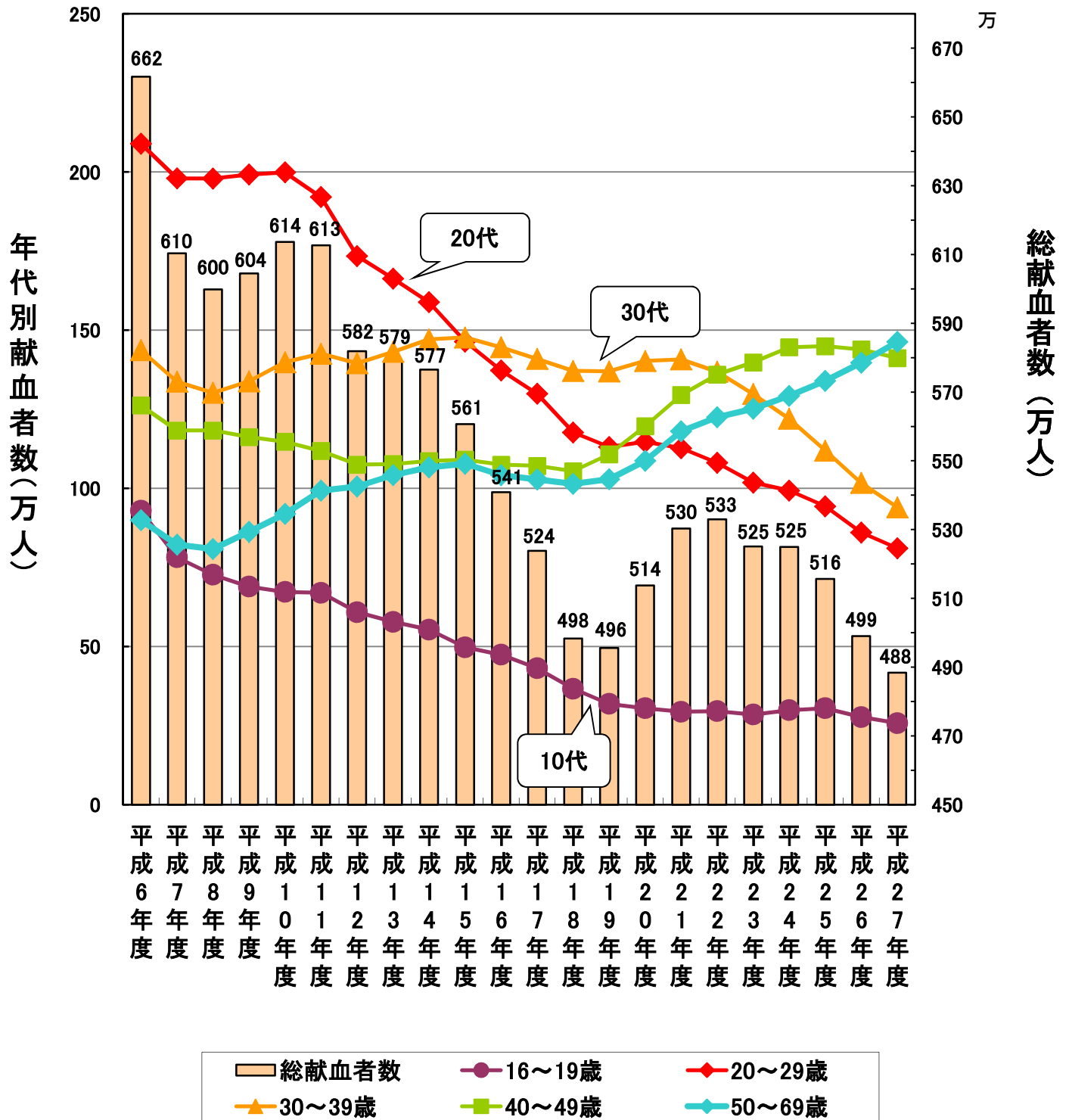
的及び長期的な効果並びに進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直す必要がある。

- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評価を行い、献血の推進に活用する。

的及び長期的な効果及び進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直す必要がある。

- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評価を行い、献血の推進に活用する。

献血者数の推移

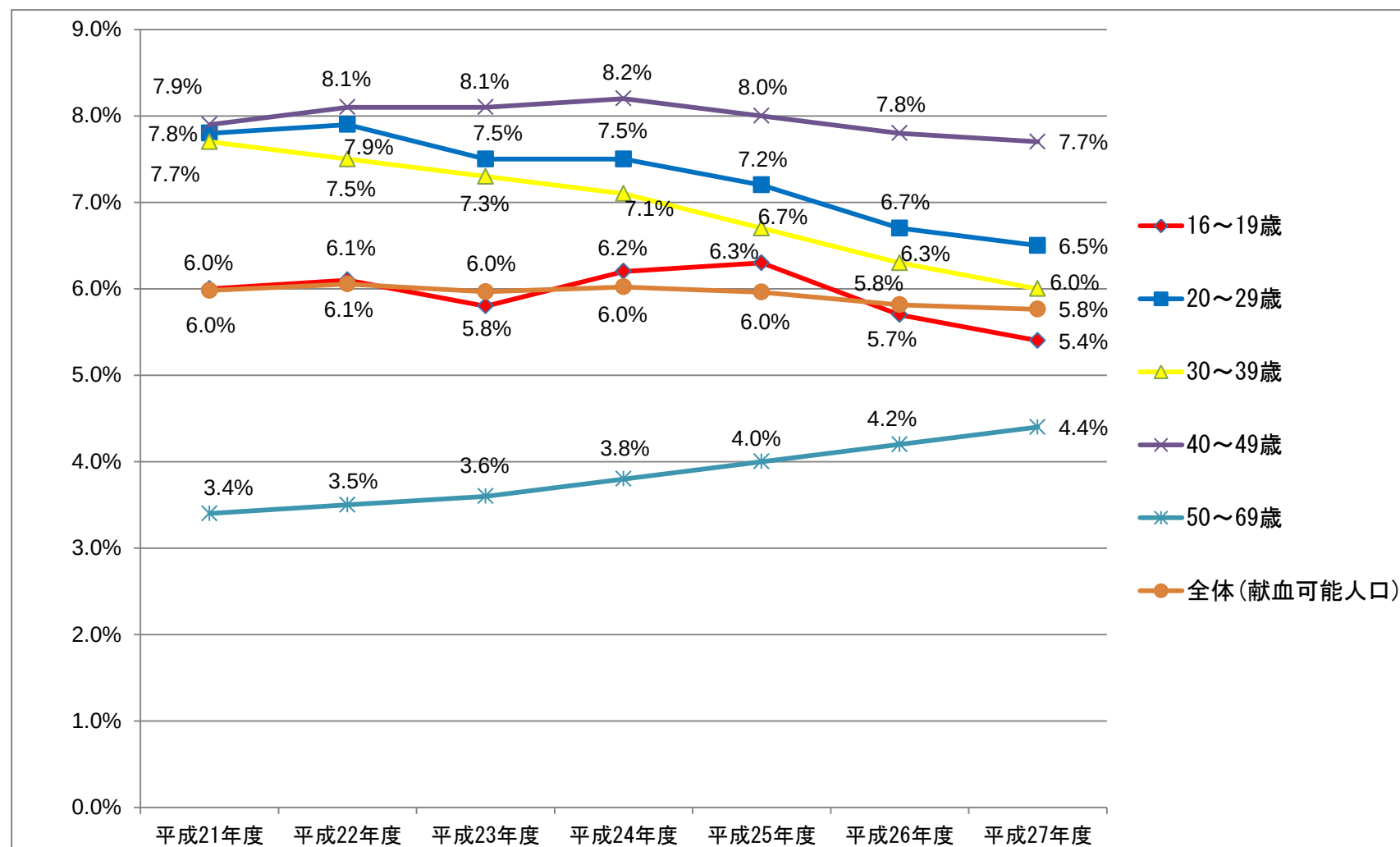


全血献血者数の推移(年代別・男女別)

年代	性別	献血者数											
		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		200mL献血	400mL献血	200mL献血	400mL献血	200mL献血	400mL献血	200mL献血	400mL献血	200mL献血	400mL献血	200mL献血	400mL献血
10代	男性	42,302	100,926	27,915	117,390	29,257	125,709	28,624	128,080	21,808	125,768	17,937	124,265
	女性	75,847	44,124	70,192	41,864	73,429	41,326	77,637	42,140	62,215	43,690	49,703	43,990
	小計	118,149	145,050	98,107	159,254	102,686	167,035	106,261	170,220	84,023	169,458	67,640	168,255
20代	男性	8,536	465,831	8,095	451,404	8,375	450,862	7,490	434,281	4,525	416,582	2,796	405,646
	女性	88,930	173,299	81,827	171,491	77,438	164,682	74,420	162,793	54,089	166,474	35,862	165,391
	小計	97,466	639,130	89,922	622,895	85,813	615,544	81,910	597,074	58,614	583,056	38,658	571,037
30代	男性	7,975	652,507	6,698	625,936	6,372	594,418	5,840	551,663	3,295	523,499	1,865	497,800
	女性	81,895	180,880	73,975	176,778	65,923	162,247	58,112	151,139	40,056	147,645	24,224	139,580
	小計	89,870	833,387	80,673	802,714	72,295	756,665	63,952	702,802	43,351	671,144	26,089	637,380
40代	男性	9,710	686,349	8,352	703,350	8,337	726,223	7,868	730,500	5,106	747,103	2,924	745,191
	女性	65,318	172,844	64,583	184,224	64,753	187,470	62,606	191,203	48,036	202,325	31,779	201,779
	小計	75,028	859,193	72,935	887,574	73,090	913,693	70,474	921,703	53,142	949,428	34,703	946,970
50代	男性	9,378	454,379	8,498	454,255	8,046	466,378	7,865	484,892	5,169	518,078	2,937	548,617
	女性	45,841	136,826	44,398	138,598	45,261	140,269	44,474	143,403	34,954	157,006	24,592	166,045
	小計	55,219	591,205	52,896	592,853	53,307	606,647	52,339	628,295	40,123	675,084	27,529	714,662
60代	男性	5,256	172,540	4,827	175,332	4,601	176,183	4,661	182,196	3,289	195,732	1,901	209,787
	女性	21,949	64,314	20,716	65,304	20,116	64,313	19,411	64,820	14,963	68,473	10,037	71,357
	小計	27,205	236,854	25,543	240,636	24,717	240,496	24,072	247,016	18,252	264,205	11,938	281,144
合計		462,937	3,304,819	420,076	3,305,926	411,908	3,300,080	399,008	3,267,110	297,505	3,312,375	206,557	3,319,448

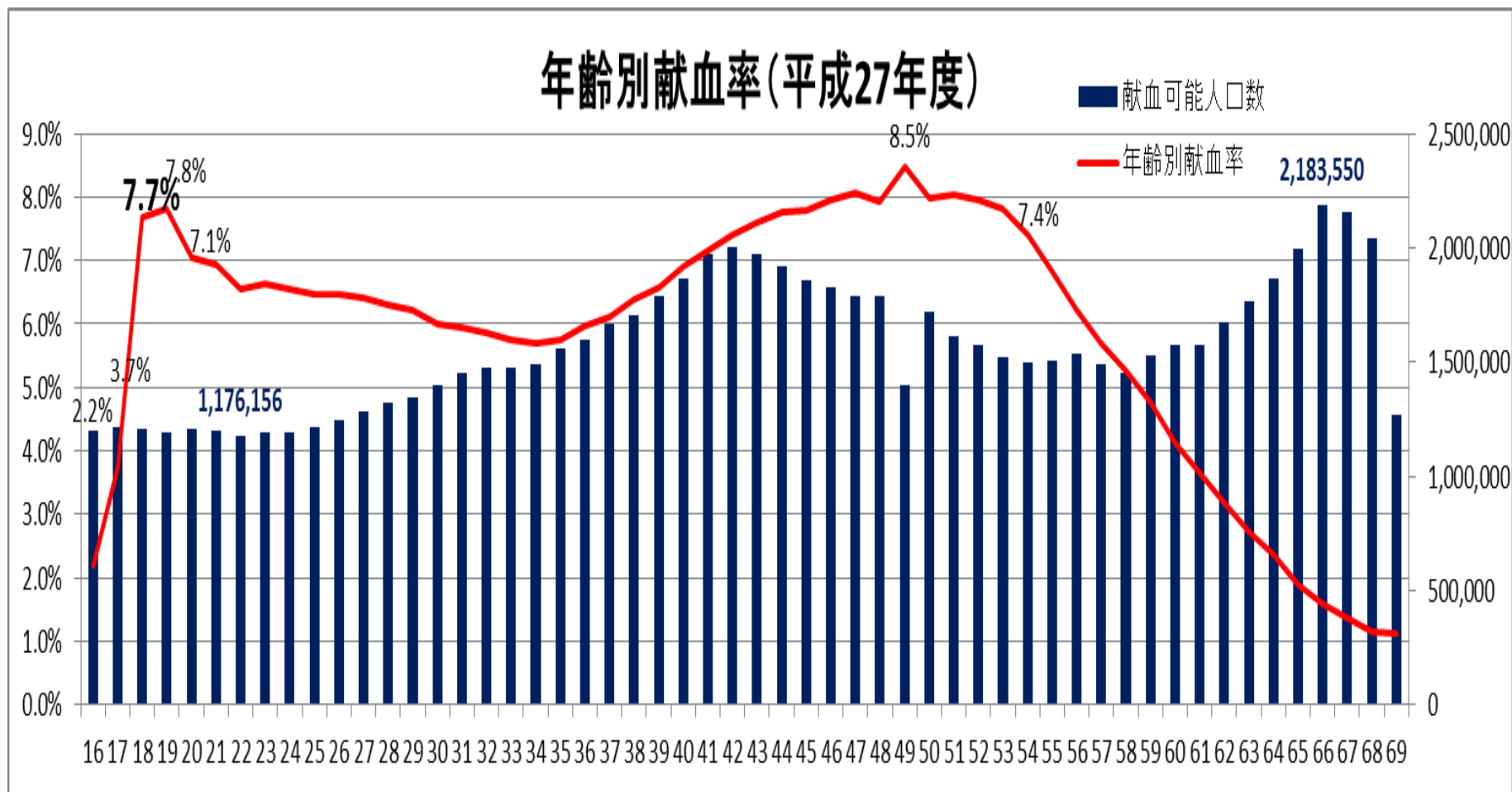
平成 28 年 12 月 15 日
日本赤十字社血液事業本部

献血率の推移（年代別）



・年齢別献血率について

10代の年代別献血率をみると18歳(7.7%)・19歳(7.8%)に献血率の高さを見ることができ、その後20歳(7.1%)から29歳にかけては、18歳・19歳と比較した場合、献血率が下がる傾向がある。



『献血推進 2014』の結果について

平成 28 年 1 月 13 日

1. 経緯

少子高齢化社会化が進む中、血液の安定供給を行える体制を確保するため、平成 17 年度から 5 年間実施した「献血構造改革」の結果及び日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションの結果等を踏まえ、平成 26（2014）年度までの達成目標を設定し、献血推進の一層の強化を行ってきた。[献血推進 2014]

2. 『献血推進 2014』の結果

項目	目標	平成 21 年度 (2009 年度)	平成 22 年度 (2010 年度)	平成 23 年度 (2011 年度)	平成 24 年度 (2012 年度)	平成 25 年度 (2013 年度)	平成 26 年度 (2014 年度)
若年層の献血者数の増加	10代の献血率を 6.4%まで増加 させる	6.0%	6.1%	5.8%	6.2%	6.3%	5.7%
	20代の献血率を 8.4%まで増加 させる	7.8%	7.9%	7.5%	7.5%	7.2%	6.7%
安定的な集団 献血の確保	集団献血等に協 力いただける企 業・団体を 50,000社まで増 加させる	43,193 社	45,343 社	47,137 社	49,232 社	50,712 社	52,084 社
複数回献血の 増加	複数回献血者を 年間 120 万人ま で増加させる	984,766 人	999,325 人	1,001,516 人	1,003,778 人	996,684 人	978,321 人

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

○ 若年層の献血者数の増加について

10 代の献血率は平成 25 年度までは順調に増加をしていたものの、平成 26 年度は減少となり、平成 21 年度の献血率を下回った（平成 21 年度 6.0%→平成 26 年度 5.7%）。また、20 代は 5 年間を通じて減少し、歯止めが効いていない状況にある（平成 21 年度 7.8%→平成 26 年度 6.7%）。

これらは 200mL 献血由来製品の需要動向を踏まえた 400mL 献血の推進方策等が要因と考えられる。一方、学校献血時における初回献血の経験は、その後の献血への動機付けとなることから、200mL 献血を含め可能な限り献血を経験していただくことが重要である。今後は、事前セミナーにより献血意識の向上を図ったうえで学校献血を実施する等、その後の継続的な献血に繋がるよう効果的な働きかけを行うことが、重要な取組みとなる。

○ 安定的な集団献血の確保について

当初の目標である 50,000 社を平成 25 年度で達成し、平成 26 年度は 52,000 社を超えた。このことは、地方自治体と採血事業者が一体となって推進が行われた結果であり、特に、企業・団体等の代表者に対し、積極的に働きかけを行ってきたことが要因であると考えます。

なお、集団献血等における若年層献血者が減少していることから、今後は、血液製剤の安定供給に配慮しつつ、集団献血等における若年層献血者の構成比率を向上させる取り組みが重要となる。

○ 複数回献血の増加について

平成 24 年度までは順調に増加をしていたものの、その後は減少し、平成 26 年度実績は 978,321 人となった。20 代・30 代以下の複数回献血者が減少していることから、今後は、血液製剤の安定供給に配慮しつつ、複数回献血者における若年層献血者の構成比率を向上させる取り組みが重要となる。

3. 今後の取組み

献血推進 2014 の結果を踏まえ、新たな中期目標のもと、若年層献血者確保のための効果的な方策のさらなる検討を行うとともに、引き続き献血推進に取り組むこととする。

献血推進に係る新たな中期目標 ～献血推進 2020～の進捗状況について

1. 背景及び目的

病気やけがの治療等に必要な血液は、国民の善意による献血によって支えられている。献血者は昭和 60 年度に延べ約 876 万人を数えたが、その後減少を続けて平成 19 年度には約 496 万人まで低下した。

国は、平成 17 年度から「献血構造改革」、平成 22 年度から「献血推進 2014」といった 5 カ年の献血推進目標を策定して献血者確保のための取り組みを行ってきた。

平成 25 年度の献血者数は約 516 万人であるが、20 代、30 代の献血率の減少が続いている。日本赤十字社の血液需給将来推計シミュレーションでは、平成 25 年の献血率（献血可能人口の 6.0%）のまま、少子高齢化が進んでいった場合、血液需要がピークとなる 2027（平成 39）年に、献血者約 85 万人分の血液が不足すると推計された。

こうした状況を踏まえ、将来の血液の安定供給体制を確保するため、新たに平成 27 年度から平成 32（2020）年度までの 6 年間の中期目標を設定し、献血の推進を図っていくこととする。

2. 平成 32（2020）年度までの達成目標

項目	目標	H25 年度 実績値	H26 年度 実績値	H32 年度 目標値
若年層の献血者数の増加	10 代(注 1)の献血率を増加させる。	6.3%	5.7%	7.0%
	20 代の献血率を増加させる。	7.2%	6.7%	8.1%
	30 代の献血率を増加させる。	6.7%	6.3%	7.6%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を増加させる。	50,712 社	52,084 社	60,000 社
複数回献血の増加	複数回献血者（年間）を増加させる。	996,684 人	978,321 人	1,200,000 人
献血の周知度の上昇	献血セミナーの実施回数（年間）を増加させる。	1,128 回	974 回	1,600 回

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下の事項について重点的に取り組んでいくこととする。

(1) 献血の普及啓発

広く国民に献血の意義を理解し、献血を行ってもらうため、効果的な普及啓発を促進する。

(2) 若年層対策の強化

① 10代への働きかけ

献血への理解を深めてもらうことにより、初めての献血を安心して行っていただくため、日本赤十字社が実施する「献血セミナー」などの積極的な活用を推進する。

② 20代・30代への働きかけ

20代・30代は、リピータードナーにならずドロップアウトする方が多いため、献血を体験した方が、長期にわたり複数回献血に協力してもらえるように普及啓発、環境整備に取り組む。

また、企業などへの働きかけを一層強化し集団献血を行うことにより、安定的な献血者の確保を図る。

(3) 安心・安全で心の充足感が得られる環境の整備

献血は相互扶助と博愛精神による自発的な行為であり、献血者一人一人の心の充足感が活動の大きな柱となっている。

献血に協力いただく方々が、より安心・安全に献血できるとともに、心の充足感を得られ継続して献血いただける環境整備を図る。

4. 進捗状況について

項目	目標	(参考) H25 年度 実績値	(参考) H26 年度 実績値	H27 年度 実績値	H32 年度 目標値
若年層の献血 者数の増加	10 代(注 1)の献血率を増 加させる。	6.3%	5.7%	5.4%	7.0%
	20 代の献血率を増加させ る。	7.2%	6.7%	6.5%	8.1%
	30 代の献血率を増加させ る。	6.7%	6.3%	6.0%	7.6%
安定的な集団 献血の確保	集団献血等に協力いただ ける企業・団体を増加さ せる。	50,712 社	52,084 社	53,316 社	60,000 社
複数回献血の 増加	複数回献血者(年間)を増 加させる。	996,684 人	978,321 人	967,142 人	1,200,000 人
献血の周知度 の上昇	献血セミナーの実施回数 (年間)を増加させる。	1,128 回	974 回	1,211 回	1,600 回

(注 1) 10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

○ 若年層の献血者数の増加について

平成 27 年度の 10 代～30 代の献血率は、いずれも前年度を下回る状況にある。

これらは 200mL 献血由来製品の需要動向を踏まえた 400mL 献血の推進方策等が要因と考えられる。一方、学校献血時における初回献血の経験は、その後の献血への動機付けとなることから、200mL 献血を含め可能な限り献血を経験していただくことが重要である。今後は、事前セミナーにより献血意識の向上を図ったうえで学校献血を実施する等し、その後の継続的な献血に繋がるよう、若年層の初回献血者を受け入れる体制を整えることが重要な取り組みとなる。

○ 安定的な集団献血の確保について

平成 27 年度の集団献血実施企業・団体数は、前年度を上回る状況にある。

このことは、地方自治体と採血事業者が一体となって推進が行われた結果であり、特に、企業・団体等の代表者に対し、積極的に働きかけを行ってきたことが要因であると考えられる。

なお、集団献血等における若年層献血者が減少していることから、今後は、血液製剤の安定供給に配慮しつつ、集団献血等における若年層献血者の構成比率を向上させる取り組みが重要となる。

○ 複数回献血の増加について

平成 27 年度の複数回献血者数は、前年度を下回る状況にあるが、年 2 回以上、献血を行っていただいている方の比率は若干であるが、上昇している。

今後も引き続き、複数回献血者クラブの活用を強化し、複数回献血者における若年層献血者の構成比率を向上させる取り組みが重要となる。

○ 献血の周知度の上昇について

平成 27 年度の献血セミナー実施回数は、前年度を上回る状況にあるが、平成 25 年度の学校等の外部施設での開催実績を基に年 5 % ずつ増加した場合の数字を目標としており、わずかに届いていない状況である。

平成 24 年から発出している「学校における献血に触れ合う機会の受入れについて（厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長通知）」に基づく地方自治体及び採血事業者の取り組みが、校長会や養護教諭への理解を高めている。今後も、全国的な取り組みとして行っていくことが重要である。

献血者確保対策について（厚生労働省の取り組み）

1. 若年層に対する働きかけ

（1）中学生への普及啓発

血液の重要性や必要性について理解を深めてもらうため、全国の中学校にポスターを配布。

- ・平成 27 年度： 11, 376 校に 3.4 万枚を配布
- ・平成 28 年度： 11, 347 校に 3.4 万枚を配布予定

（2）高校生への普及啓発

献血及び血液事業に対する理解を促進させるため、全国の高校生及び教員へ副読本（けんけつ H O P S T E P J U M P）を配布。

- ・平成 27 年度： 6, 260 校に生徒用 116 万部、教員用 6.3 万部を配布
- ・平成 28 年度： 6, 381 校に生徒用 117 万部、教員用 6.4 万部を配布予定

（3）学校における献血に触れ合う機会の受入れの推進

学校献血や献血セミナーといった献血に触れ合うための機会を高等学校等に積極的に受入れてもらえるように文部科学省へ協力を要請（平成 23 年度より毎年度要請）。

（4）主に 10 代、20 代の若年層を対象とした普及啓発

「はたちの献血」キャンペーン（毎年 1～2 月）啓発宣伝用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布。

- ・平成 27 年度： 4.3 万枚を配布
- ・平成 28 年度： 4.2 万枚を配布予定

2. その他の普及啓発（国民的な普及啓発）

（1）「愛の血液助け合い運動」（毎年 7 月）の実施

① 厚生労働省、都道府県、日本赤十字社の共催で実施。啓発宣伝用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布。

- ・平成 27 年度： 3.9 万枚を配布
- ・平成 28 年度： 3.9 万枚を配布予定

② 「愛の血液助け合い運動」の一環として「献血運動推進全国大会」（毎年 7 月）を開催。

- ・平成 28 年度は、皇太子同妃両殿下に御臨席を賜り、東京都渋谷区において開催（7 月 7 日）。

（2）テレビ、ラジオ、新聞等の政府広報を積極的に活用した普及啓発の実施

- ・平成 27 年度： 政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter
- ・平成 28 年度（予定）： 政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter

献血者確保対策について

(平成 28 年度 日本赤十字社の取り組み)

平成 27 年度における献血者確保について

平成 27 年度は、医療機関における血液製剤の需要動向等を踏まえ、申込者数 5,670,736 人（対前年比 97.5%）、献血者数 4,883,587 人（対前年比 97.9%）のご協力をいただいた。

献血方法別で見ると、成分献血者数 1,357,582 人（対前年比 98.3%）、400mL 献血者数 3,319,448 人（対前年比 100.2%）、200mL 献血者数 206,557 人（対前年比 69.4%）となった。

一時的あるいは季節的な輸血用血液製剤の不足にも十分対応できるよう、需要に見合った血液の確保及び有効利用等（期限切れの抑制）を行い、血液を安定的に供給することができた。

*献血推進 2014（平成 26 年（2014 年）度までの達成目標）

項目	目標	平成 24 年度実績	平成 25 年度実績	平成 26 年度実績
若年層の献血者数の増加	10 代(注)の献血率を 6.4%まで増加させる。	6.2%	6.3%	5.7%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.5%	7.2%	6.7%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	49,232 社	50,712 社	52,084 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	1,003,778 人	996,684 人	978,321 人

（注）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳のことを指す。

1. 平成 28 年度の取り組み

平成 27 年度より、新たな中期目標『献血推進 2020』が新たにスタートした。

また、『献血推進 2020』から新たな項目及び目標値(網掛け部分)が加わった。

項目	目標	平成 27 年度実績	平成 32(2020)年度目標値
若年層の献血者数の増加	10 代(注)の献血率を増加させる。	5.4%	7.0%
	20 代の献血率を増加させる。	6.5%	8.1%
	30 代の献血率を増加させる。	6.0%	7.6%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を増加させる。	53,316 社	60,000 社
複数回献血の増加	複数回献血者(年間)を増加させる。	967,142 人	1,200,000 人
献血の周知度の上昇	献血セミナーの実施回数(年間)を増加させる。	1,211 回	年間 1,600 回

(注)10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳のことを指す。

(1) 若年層の献血者数の増加について

10 代については、平成 32 年(2020 年)度は 7.0%まで増加させる。(平成 27 年度実績 5.4%)

20 代については、平成 32 年(2020 年)度は 8.1%まで増加させる。(平成 27 年度実績 6.5%)

30 代については、平成 32 年(2020 年)度は 7.6%まで増加させる。(平成 27 年度実績 6.0%)

*献血率算出における人口については、平成 27 年 10 月 1 日の国勢調査の統計資料を準用

○若年層に向けた広報

献血の意義や、献血血液の医療現場での使用状況について、国民が広く理解できるように進めることが、献血意識を高めることにつながることから、血液事業をより理解していただくため、パンフレット「愛のかたち献血(小・中学生用及び一般用)」の制作、高校生・大学生を対象とした学生献血推進などを中心として、各年齢層に応じた広報を継続的に展開するとともに、広報誌(献血 Walker 等)を制作・配布や、ライフレシピア

ント(輸血経験者)による献血の必要性を訴える動画の積極的な活用により、受血者の顔が見える取り組みを推進する。

また、若年層全体(10～30代)を対象とした「LOVE in Action プロジェクト」や「はたちの献血キャンペーン」を通して全国統一のキャンペーンを展開し、関係団体との連携を図ることとしている。

更に、大学生を中心とする学生献血推進ボランティアの活動を支援し、大学献血の実施回数の増加と、同世代の目線から若年層献血の推進を展開する。

○安定供給につながる若年層(小・中学生及び高校生)への対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に「献血の制度について適宜触れること」が盛り込まれ、また、平成 24 年から厚生労働省から文部科学省へ協力依頼を行った結果、「学校における献血に触れ合う機会について」が発出されたことから、平成 28 年度も、高校生はもとより将来の献血者群である小・中学生等を対象とした献血セミナーを学校へ出向いて積極的に実施するため、とりわけ都道府県の協力も得ながら推進を図り、また、文部科学省が実施している「土曜学習応援団」事業にも参画していく。

更に、文部科学省や厚生労働省の協力を得て、学校や家庭において命の尊さや献血の大切さ等について考える機会を創出するため、「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」を引き続き実施している。

新たに全国高校ダンス部選手権へ LOVE in Action プロジェクトがコラボし、学校教育への更なる献血教育参入にむけた取り組みを始める予定としている。

以上の広報及び対策をもって、献血可能人口の減少世代を献血へ結び付ける動機付けを推進し、献血協力者の拡大に併せて、献血という行為の理解者(サポーター)を増加させていく。

また、10代・20代・30代の各都道府県別確保目標数を定め定量化を図り、各ブロック血液センター別で進捗管理を行い積極的確保を行う。

更に、これまでに効果的な取組を行った若年層推進・啓発にかかる事例集を作成し、各血液センターへ水平展開を図ることを考えている。

(2) 安定的な集団献血の確保について

安定的な集団献血の確保を図るために、集団献血等に協力いただける企業・団体を減少させることなく、平成 32 年(2020)度に 60,000 社まで増加させる。(平成 27 年度実績 53,316 社)

○企業・団体献血の確保対策

企業・団体が行う献血推進活動を社会貢献活動の一つとして広く一般社会に認知されるよう「献血サポーター」ロゴマークを配布し、企業・団体の献血推進活動の普及・拡大を図る。（参考：平成 27 年度新規配布実績 186 企業・団体）

更に、献血担当者に向け、若年層献血推進の意義と、400mL・成分献血の重要性を理解いただくよう積極的に理解を求め、固定施設へも誘導できるよう、各都道府県及び市町村と一層の連携を図り協力を依頼する。また、献血推進協議会等の活性や、献血協力団体（ライオンズクラブ・青年会議所等）にも更なる支援と協力を図る。

（3）複数回献血の増加について

複数回献血者については、平成 32 年（2020）度は年間 120 万人まで増加させる。（平成 27 年度実績 967,142 人）

○複数回献血クラブ会員の普及拡大

複数回献血者の増加を図るために、複数回献血クラブ会員を対象として、現行の献血カードに加え、新たなデザインの献血カードを提供している。（平成 23 年 10 月 3 日全国導入）

特に、30 代以下の会員拡大を推進し、新たに複数回献血クラブに加入した会員に、一年間に再度献血をしていただくための取り組みの強化と併せて若年層献血の向上を図る。

また、特に 20 代・30 代の複数回献血者が 40 代・50 代と比較してその割合が低いことから、10 代・20 代・30 代の献血者に対して、複数回献血の現状と将来の輸血用血液製剤の動向を理解していただき、複数回献血へと誘導を図る。

更に、複数回献血クラブ会員の年間ゼロ回会員（約 42 万人）に対し、若年層会員を中心に複数回献血の掘り起し強化を行う。これまでの複数回献血クラブシステム（平成 17 年度導入）の課題等を洗い直し、機能充実化に向けた検討を行い、会員拡大を広める。

（4）献血の周知度の上昇（献血セミナーの実施）

高校、大学専門学校生及び献血可能未成年年齢群（小中学生）に献血の必要性及び重要性等の知識を啓発し、将来の献血協力者へ誘導させるため、献血セミナーを平成 32 年（2020）度に 1,600 回実施する。（平成 27 年度実績 1,211 回）

○献血セミナーの実施拡大

各都道府県及び市町村の献血推進協議会等と連携し、教育委員会及び学校当局に対し、「献血セミナー」の実施を強力に推進し、献血の現状と献血の意義を深く理解させ、将来の献血協力者へ育成する。また、献血セミナーの実施拡大に向けては、ライオンズクラブ・学生献血推進実行委員会等、関係団体との緊密な連携により、実施回数を伸ばしていく。同世代からの働きかけとして、平成 28 年度は新たに学生による献血セミナー説明用スライドを作成し、献血セミナーに参画をしていく。

(5) 安心して献血ができる環境スペースの周知

献血ルームについては、平成 22 年 9 月に策定された「献血ルーム施設整備ガイドライン」に基づき、20 代・30 代の子育て世代にも、積極的に献血に協力いただくための託児スペース等を充実させてきたため、HP 等を活用した献血環境の周知を図っていく。

(6) 献血者の安全対策等

採血時または採血後の副作用発生状況を把握していく。また、採血副作用の種類・発生頻度、献血後の注意事項等の献血に関する必要な情報について初回献血者を始めとした献血者へ周知を図り、採血後の休憩を十分とって頂く等の未然防止策を実施する。

複数回献血者及び複数回献血クラブについて

1. 男女別・献血回数別実献血者数の推移(平成23年度～平成27年度)

平成23年度

(単位:人)

性別	献 血 回 数																合計
	1	比率	2	比率	3	比率	4	比率	5以上～10以下	比率	11以上～20以下	比率	21以上	比率	2回以上 (複数回) 【再掲】	比率	
男性	1,307,529	64.6%	449,118	22.2%	151,395	7.5%	23,529	1.2%	58,499	2.9%	31,832	1.6%	1,129	0.1%	715,502	35.3%	2,023,031
女性	790,318	73.4%	195,512	18.2%	36,576	3.4%	18,379	1.7%	29,299	2.7%	6,076	0.6%	172	0.0%	286,014	26.6%	1,076,332
小計	2,097,847	67.7%	644,630	20.8%	187,971	6.1%	41,908	1.4%	87,798	2.8%	37,908	1.2%	1,301	0.0%	1,001,516	32.3%	3,099,363

平成24年度

(単位:人)

性別	献 血 回 数																合計
	1	比率	2	比率	3	比率	4	比率	5以上～10以下	比率	11以上～20以下	比率	21以上	比率	2回以上 (複数回) 【再掲】	比率	
男性	1,302,729	64.3%	452,928	22.4%	154,128	7.6%	23,040	1.1%	58,595	2.9%	32,767	1.6%	1,131	0.1%	722,589	35.7%	2,025,318
女性	769,403	73.2%	190,197	18.1%	36,400	3.5%	18,136	1.7%	29,895	2.8%	6,353	0.6%	208	0.0%	281,189	26.8%	1,050,592
小計	2,072,132	67.4%	643,125	20.9%	190,528	6.2%	41,176	1.3%	88,490	2.9%	39,120	1.3%	1,339	0.0%	1,003,778	32.6%	3,075,910

平成25年度

(単位:人)

性別	献 血 回 数																合計
	1	比率	2	比率	3	比率	4	比率	5以上～10以下	比率	11以上～20以下	比率	21以上	比率	2回以上 (複数回) 【再掲】	比率	
男性	1,260,377	63.7%	447,119	22.6%	157,342	7.9%	22,707	1.1%	58,730	3.0%	32,293	1.6%	1,077	0.1%	719,268	36.3%	1,979,645
女性	743,650	72.8%	187,895	18.4%	36,016	3.5%	17,997	1.8%	29,062	2.8%	6,231	0.6%	215	0.0%	277,416	27.2%	1,021,066
小計	2,004,027	66.8%	635,014	21.2%	193,358	6.4%	40,704	1.4%	87,792	2.9%	38,524	1.3%	1,292	0.0%	996,684	33.2%	3,000,711

平成26年度

(単位:人)

性別	献 血 回 数																合計
	1	比率	2	比率	3	比率	4	比率	5以上～10以下	比率	11以上～20以下	比率	21以上	比率	2回以上 (複数回) 【再掲】	比率	
男性	1,225,206	63.0%	445,289	22.9%	163,078	8.4%	21,694	1.1%	56,331	2.9%	31,329	1.6%	965	0.0%	718,686	35.5%	1,943,892
女性	710,012	73.2%	182,162	18.8%	30,745	3.2%	15,391	1.6%	25,793	2.7%	5,366	0.6%	178	0.0%	259,635	24.7%	969,647
小計	1,935,218	66.4%	627,451	21.5%	193,823	6.7%	37,085	1.3%	82,124	2.8%	36,695	1.3%	1,143	0.0%	978,321	33.6%	2,913,539

平成27年度

(単位:人)

性別	献 血 回 数																合計
	1	比率	2	比率	3	比率	4	比率	5以上～10以下	比率	11以上～20以下	比率	21以上	比率	2回以上 (複数回) 【再掲】	比率	
男性	1,193,097	62.3%	442,257	23.1%	170,286	8.9%	22,042	1.2%	56,054	2.9%	30,632	1.6%	1,044	0.1%	722,315	37.7%	1,915,412
女性	665,951	68.7%	173,173	17.9%	27,414	2.8%	14,206	1.5%	24,626	2.5%	5,218	0.5%	190	0.0%	244,827	26.9%	910,778
小計	1,859,048	65.8%	615,430	21.8%	197,700	7.0%	36,248	1.3%	80,680	2.9%	35,850	1.3%	1,234	0.0%	967,142	34.2%	2,826,190

実献血者数は年々減少傾向にあるが、2回以上の献血者群(複数回献血者)の比率は増加傾向にある。平成23年度から見ていくと年間1回の献血者が全体の約6割を占めており今後は、年間1回(平成27年度 65.8%)の献血者群を複数回献血に移行させていくための対策が必要と考える。

平成26年度 年代別・男女別・回数別実献血者数

(単位:人)

		献 血 回 数																	
年代	性別	1	比率	2	比率	3	比率	4	比率	5以上～10以下	比率	11以上～20以下	比率	21以上	比率	2回以上 (複数回) 【再掲】	比率	合計	構成比率
10代	男性	65,396	84.3%	8,797	11.3%	2,289	2.9%	484	0.6%	544	0.7%	87	0.1%	0	0.0%	12,201	15.7%	77,597	
	女性	49,067	81.0%	7,915	13.1%	2,223	3.7%	949	1.6%	366	0.6%	34	0.1%	0	0.0%	11,487	19.0%	60,554	
	小計	114,463	82.9%	16,712	12.1%	4,512	3.3%	1,433	1.0%	910	0.7%	121	0.1%	0	0.0%	23,688	17.1%	138,151	4.7%
20代	男性	251,570	72.4%	63,887	18.4%	19,245	5.5%	3,186	0.9%	6,644	1.9%	2,720	0.8%	30	0.0%	95,712	27.6%	347,282	
	女性	169,617	74.0%	39,682	17.3%	8,367	3.7%	4,041	1.8%	6,461	2.8%	920	0.4%	3	0.0%	59,474	26.0%	229,091	
	小計	421,187	73.1%	103,569	18.0%	27,612	4.8%	7,227	1.3%	13,105	2.3%	3,640	0.6%	33	0.0%	155,186	26.9%	576,373	19.8%
30代	男性	254,005	65.1%	85,158	21.8%	29,120	7.5%	4,648	1.2%	11,525	3.0%	5,821	1.5%	117	0.0%	136,389	34.9%	390,394	
	女性	133,991	73.4%	32,111	17.6%	6,266	3.4%	3,218	1.8%	5,885	3.2%	1,141	0.6%	28	0.0%	48,649	26.6%	182,640	
	小計	387,996	67.7%	117,269	20.5%	35,386	6.2%	7,866	1.4%	17,410	3.0%	6,962	1.2%	145	0.0%	185,038	32.3%	573,034	19.7%
40代	男性	330,363	59.3%	137,845	24.8%	52,328	9.4%	6,804	1.2%	18,570	3.3%	10,688	1.9%	269	0.0%	226,504	40.7%	556,867	
	女性	175,392	73.2%	44,712	18.7%	7,144	3.0%	3,761	1.6%	7,107	3.0%	1,497	0.6%	31	0.0%	64,252	26.8%	239,644	
	小計	505,755	63.5%	182,557	22.9%	59,472	7.5%	10,565	1.3%	25,677	3.2%	12,185	1.5%	300	0.0%	290,756	36.5%	796,511	27.3%
50代	男性	231,168	57.0%	105,743	26.1%	40,932	10.1%	4,823	1.2%	13,898	3.4%	8,564	2.1%	316	0.1%	174,276	43.0%	405,444	
	女性	126,576	71.2%	38,193	21.5%	4,828	2.7%	2,443	1.4%	4,458	2.5%	1,239	0.7%	59	0.0%	51,220	28.8%	177,796	
	小計	357,744	61.3%	143,936	24.7%	45,760	7.8%	7,266	1.2%	18,356	3.1%	9,803	1.7%	375	0.1%	225,496	38.7%	583,240	20.0%
60代	男性	92,704	55.7%	43,859	26.4%	19,164	11.5%	1,749	1.1%	5,150	3.1%	3,449	2.1%	233	0.1%	73,604	44.3%	166,308	
	女性	55,369	69.3%	19,549	24.5%	1,917	2.4%	979	1.2%	1,516	1.9%	535	0.7%	57	0.1%	24,553	30.7%	79,922	
	小計	148,073	60.1%	63,408	25.8%	21,081	8.6%	2,728	1.1%	6,666	2.7%	3,984	1.6%	290	0.1%	98,157	39.9%	246,230	8.5%
合計		1,935,218		627,451		193,823		37,085		82,124		36,695		1,143		978,321		2,913,539	
構成比		66.4%		21.5%		6.7%		1.3%		2.8%		1.3%		0.04%		33.6%		100.0%	

※複数回献血者数: 2014/4/1～2015/3/31までの実献血者

1. 献血回数2回以上の比率は、昨年度と同様、男女とも年代が上がるほど高くなる傾向であるが、女性の場合と比較して、特に男性の20代、30代と40代以降の比率の差が大きい。
2. 一方、年間1回の献血者数は20代・30代の合計と40代・50代の合計を比較すると、20代・30代の方が昨年度とほぼ変わらず約55,000人下回っている状況であることから、今後も30代も含めた若年層に複数回献血の意識付けを行っていくことによって、将来に向けた安定的な献血者の確保を図っていかなくてはならない。

平成27年度 年代別・男女別・回数別実献血者数

(単位:人)

		献 血 回 数																	
年代	性別	1		2		3		4		5以上～10以下		11以上～20以下		21以上		2回以上 (複数回) 【再掲】		合計	構成比率
			比率		比率		比率		比率		比率		比率		比率				
10代	男性	96,057	79.8%	17,636	14.7%	4,632	3.8%	733	0.6%	1,048	0.9%	242	0.2%	0	0.0%	24,291	20.2%	120,348	
	女性	65,975	79.1%	12,415	14.9%	2,710	3.3%	1,217	1.5%	967	1.2%	78	0.1%	1	0.0%	17,388	20.9%	83,363	
	小計	162,032	79.5%	30,051	14.8%	7,342	3.6%	1,950	1.0%	2,015	1.0%	320	0.2%	1	0.0%	41,679	20.5%	203,711	
20代	男性	230,983	71.2%	61,015	18.8%	19,736	6.1%	3,191	1.0%	6,746	2.1%	2,792	0.9%	43	0.0%	93,523	28.8%	324,506	
	女性	147,977	73.6%	34,860	17.3%	7,323	3.6%	3,778	1.9%	6,130	3.1%	858	0.4%	12	0.0%	52,961	26.4%	200,938	
	小計	378,960	72.1%	95,875	18.2%	27,059	5.1%	6,969	1.3%	12,876	2.5%	3,650	0.7%	55	0.0%	146,484	27.9%	525,444	
30代	男性	246,661	64.0%	85,888	22.3%	30,918	8.0%	4,659	1.2%	11,493	3.0%	5,787	1.5%	155	0.0%	138,900	36.0%	385,561	
	女性	121,993	73.3%	29,516	17.7%	5,489	3.3%	2,944	1.8%	5,402	3.2%	1,086	0.7%	21	0.0%	44,458	26.7%	166,451	
	小計	368,654	66.8%	115,404	20.9%	36,407	6.6%	7,603	1.4%	16,895	3.1%	6,873	1.2%	176	0.0%	183,358	33.2%	552,012	
40代	男性	319,658	58.2%	137,518	25.0%	55,085	10.0%	7,221	1.3%	19,040	3.5%	10,677	1.9%	288	0.1%	229,829	41.8%	549,487	
	女性	164,707	73.1%	42,431	18.8%	6,523	2.9%	3,465	1.5%	6,776	3.0%	1,492	0.7%	30	0.0%	60,717	26.9%	225,424	
	小計	484,365	62.5%	179,949	23.2%	61,608	8.0%	10,686	1.4%	25,816	3.3%	12,169	1.6%	318	0.0%	290,546	37.5%	774,911	
50代	男性	221,521	56.5%	102,383	26.1%	41,981	10.7%	4,607	1.2%	13,135	3.3%	8,113	2.1%	363	0.1%	170,582	43.5%	392,103	
	女性	119,734	71.1%	37,071	22.0%	4,015	2.4%	2,126	1.3%	4,072	2.4%	1,215	0.7%	74	0.0%	48,573	28.9%	168,307	
	小計	341,255	60.9%	139,454	24.9%	45,996	8.2%	6,733	1.2%	17,207	3.1%	9,328	1.7%	437	0.1%	219,155	39.1%	560,410	
60代	男性	78,217	54.5%	37,817	26.4%	17,934	12.5%	1,631	1.1%	4,592	3.2%	3,021	2.1%	195	0.1%	65,190	45.5%	143,407	
	女性	45,565	68.7%	16,880	25.5%	1,354	2.0%	676	1.0%	1,279	1.9%	489	0.7%	52	0.1%	20,730	31.3%	66,295	
	小計	123,782	59.0%	54,697	26.1%	19,288	9.2%	2,307	1.1%	5,871	2.8%	3,510	1.7%	247	0.1%	85,920	41.0%	209,702	
合計		1,859,048		615,430		197,700		36,248		80,680		35,850		1,234		967,142		2,826,190	
構成比		65.8%		21.8%		7.0%		1.3%		2.9%		1.3%		0.04%		34.2%		100.0%	

※複数回献血者数: 2015/4/1～2016/3/31までの実献血者

1. 献血回数2回以上の比率は、昨年度と同様、男女とも年代が上がるほど高くなる傾向であるが、女性の場合と比較して、特に男性の20代、30代と40代以降の比率の差が大きい。
2. 一方、年間1回の献血者数は20代・30代の合計と40代・50代の合計を比較すると、20代・30代の方が昨年度とほぼ変わらず約55,000人下回っている状況であることから、今後も30代も含めた若年層に複数回献血の意識付けを行っていくことによって、将来に向けた安定的な献血者の確保を図っていかなくてはならない。

複数回献血クラブの状況

複数回献血クラブ会員 年代構成(平成27年9月時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
合計	21,978	220,521	216,057	292,745	174,545	47,822	973,668
構成比	2.3%	22.6%	22.2%	30.1%	17.9%	4.9%	100.0%

複数回献血クラブ会員 年代構成(平成28年9月時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
合計	22,789	252,764	240,764	340,568	213,282	59,890	1,130,057
対前年 増減数	811	32,243	24,707	47,823	38,737	12,068	156,389
構成比	2.0%	22.4%	21.3%	30.1%	18.9%	5.3%	100.0%

平成26年度 複数回献血クラブ会員 献血回数別実献血者数

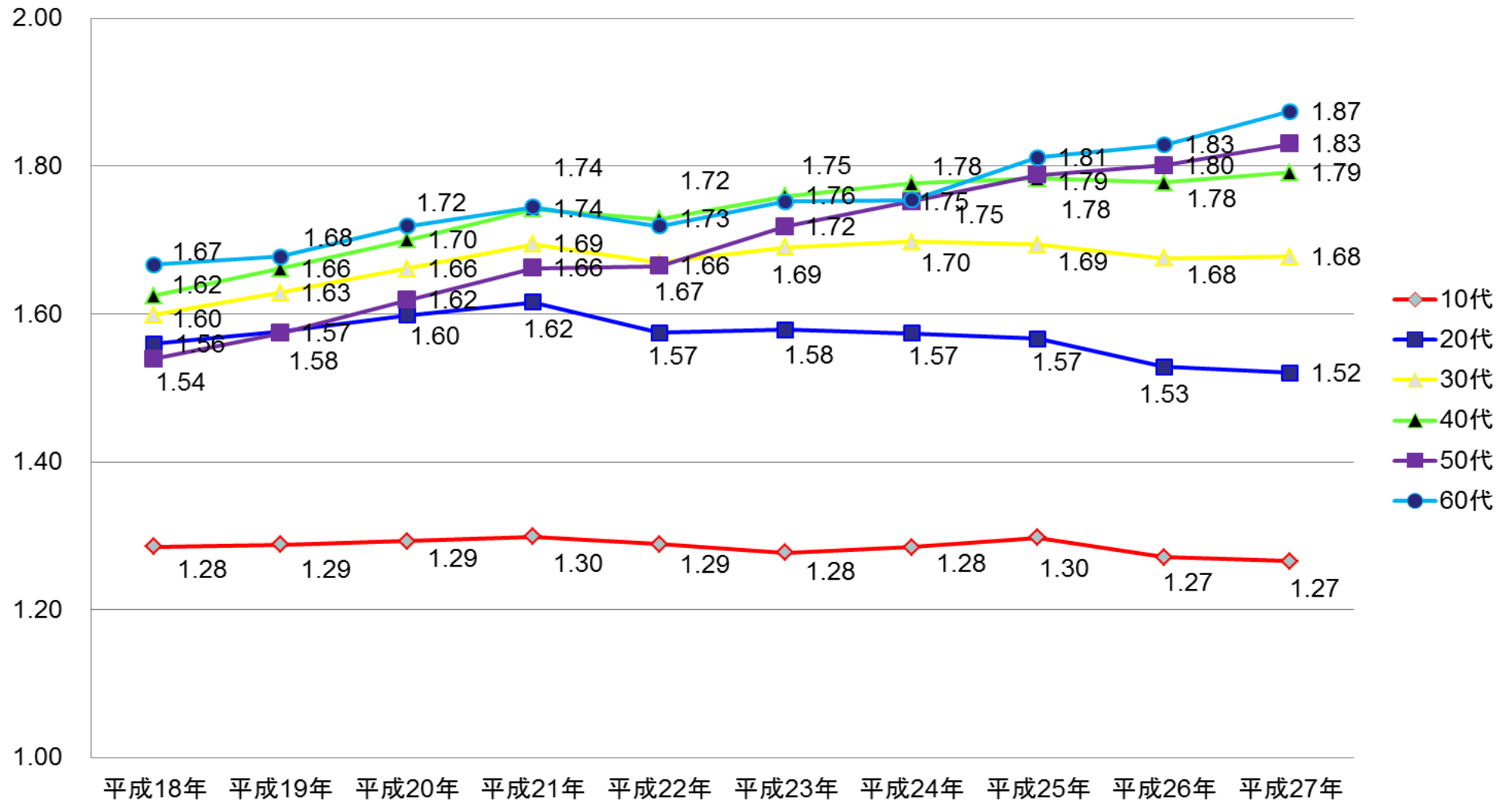
	献血回数								合計
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回以上	2回以上 【再掲】	
会員数(人)	272,049	165,441	79,898	20,154	13,742	10,562	53,395	343,192	615,241
構成比	44.2%	26.9%	13.0%	3.3%	2.2%	1.7%	8.7%	55.8%	

平成27年度 複数回献血クラブ会員 献血回数別実献血者数

	献血回数								合計
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回以上	2回以上 【再掲】	
会員数(人)	322,641	190,669	92,118	21,761	14,376	11,234	54,709	384,867	707,508
対前年 増減数	50,592	25,228	12,220	1,607	634	672	1,314	41,675	92,267
構成比	45.6%	26.9%	13.0%	3.1%	2.0%	1.6%	7.7%	54.4%	

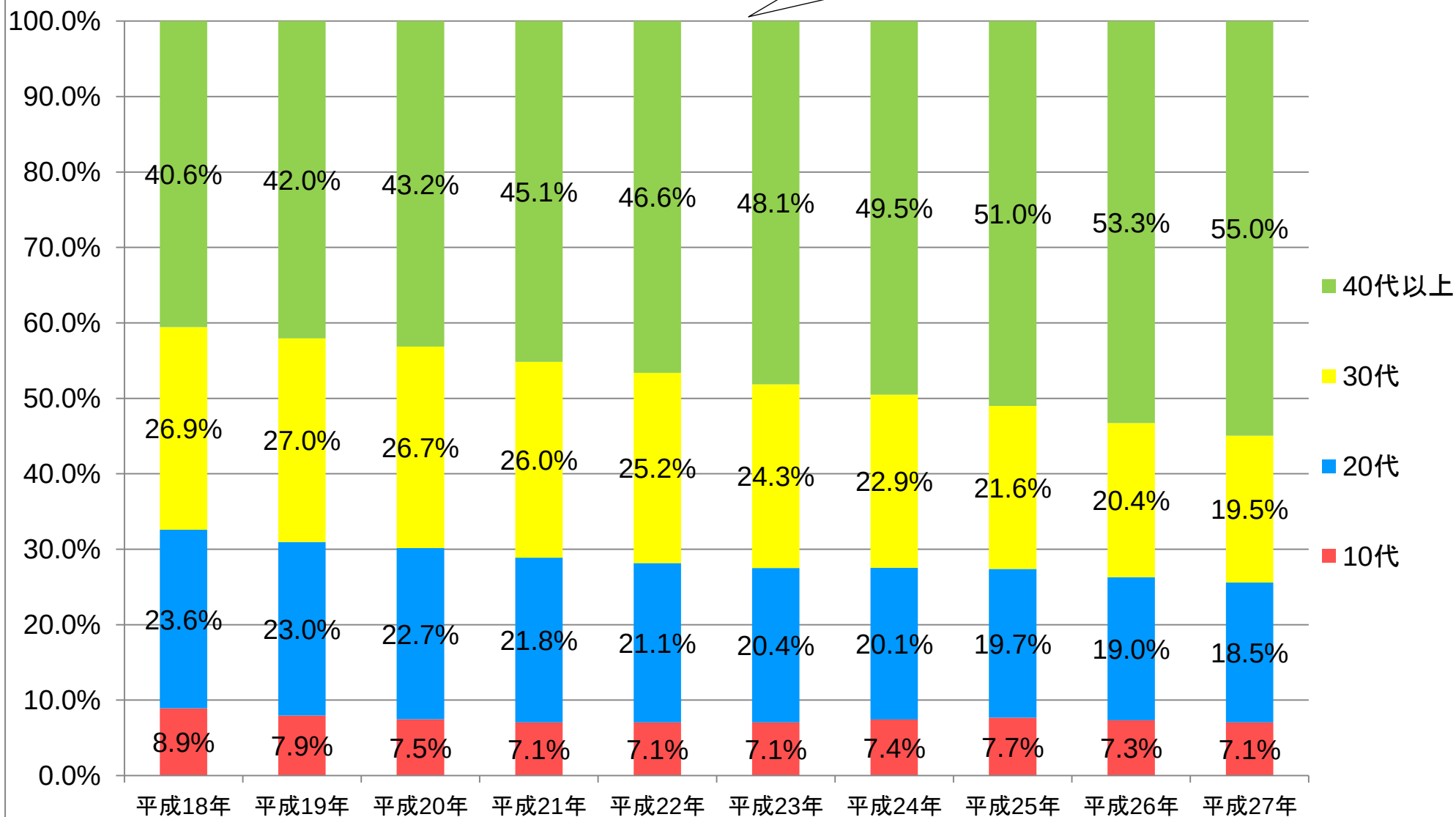
複数回献血の推進

10代・20代・30代の献血者は複数回献血クラブへ推進強化



複数回献血の推進

※献血基準変更



平成 28 年 12 月 15 日
日本赤十字社血液事業本部

若年層献血者について (平成 27 年度報告)

1. 平成 27 年度における高校生の献血実績について

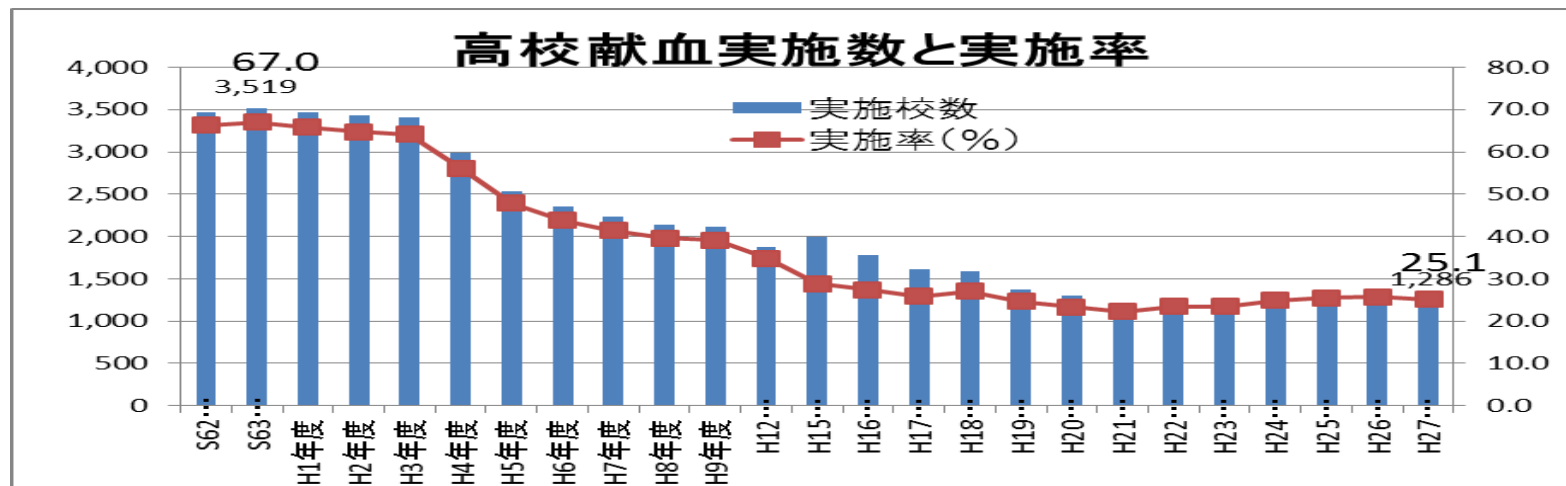
平成 27年度における高校生の献血者数は、113,197 人(前年度比 90.9%)であった。また、献血場所別の献血者数については、献血バス・出張採血が 63,720 人(前年度比 92.9%)、献血ルーム・血液センターが 49,477 人(前年度比 88.5%)であった。

(表1) 高校生の献血場所別の献血者数 (単位: 人)

	献血バス 出張採血	献血ルーム 血液センター	合計
平成 22 年度	66,785	58,685	125,470
平成 23 年度	69,593	56,294	125,887
平成 24 年度	74,523	61,680	136,203
平成 25 年度	73,374	64,815	138,189
平成 26 年度	68,578	55,896	124,474
平成 27 年度	63,720	49,477	113,197

2. 高等学校での献血実施状況について

(グラフ1)



平成 27 年度の高等学校設置数は全国で 5,117 校中、献血実施校数は 1,286 校(前年度比 100%)であり、この数年は 4 校に1校の献血実施であった。(昭和の時代は高校献血が7割近くで献血実施されていた。)

*厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため、平成 4 年、11 年、13 年、14 年度は、調査未実施

2. 高校生の初回献血者数について

(基本的な考え方)

血液製剤の医療機関の需要の観点から、献血を推進するうえで 400mL 全血献血を基本とする。

また、将来の献血推進の基盤となる若年層に対する献血推進が重要であることから、200mL 献血については、血液製剤の需要動向も考慮しつつ、初回 16 歳男女、17 歳女性の高校生等を中心とした若年層の献血推進を今後行う。

(表 2)平成 27 年度における初回献血者の実績について

(単位:人)

	200mL 献血			400mL 献血			合計
	16 歳男女	17 歳女性	計	17 歳男性	18 歳男女	計	
平成 22 年度	27,467	14,063	41,530	0	48,945	48,945	90,475
平成 23 年度	25,712	13,243	38,955	12,885	45,129	58,014	96,969
平成 24 年度	28,008	14,099	42,107	14,677	45,875	60,552	102,659
平成 25 年度	28,028	14,226	42,254	14,208	46,280	60,488	102,742
平成 26 年度	22,887	11,024	33,911	14,719	43,906	58,625	92,536
平成 27 年度	20,023	9,452	29,475	15,296	43,895	59,191	88,666

*17 歳男性の 400mL 献血は、平成 23 年度より採血基準変更での導入となる。

高校生の各受入施設の献血者数及び初回献血者数ともに、平成 27 年度は 200mL 献血を中心に減少となった。このことは 200mL 献血由来赤血球製剤の需要動向によるところが大きいと言える。(赤血球製剤の需要400mL 比率 96,2%⇒400mL 献血比率 94.1%)

その一方で、平成 24 年から「学校における献血に触れ合う機会の受け入れについて」を厚生労働省から文部科学省に発出し、文部科学省を通じて学校関係者等に対して、日本赤十字社が実施している献血セミナー等を積極的に受け入れてもらえるように各都道府県あての依頼を平成 27 年度も行った。今後は、学校教育へ更に献血教育を普及啓発が必要なことから、文部科学省・都道府県更には献血推進協議会・教育委員会

等の関係機関からの連携協力が極めて重要である。

献血セミナーについては、通知により参加人数が飛躍的に増加している。但し「高校での献血セミナー」が平成 27 年度に減少していることから、高校への重点的な取り組みを行い、参加人数を増加させる必要があり、高校内での献血実施の推進はもとより献血行動を促進するキッカケ作りのために学校教育へ働きかける体制作りが必要である。平成 27 年度からは、ライオンズクラブや学生献血実行委員会等の献血セミナー協力がスタートしている。

(表3)平成 27 年度における献血セミナー参加者数

全体	参加人数	前年度比
平成 22 年度	72,407	
平成 23 年度	83,825	115.8%
平成 24 年度	123,159	146.9%
平成 25 年度	151,037	122.6%
平成 26 年度	158,197	104.7%
平成 27 年度	179,785	113.6%

高校生	参加人数	前年度比
平成 22 年度	21,456	
平成 23 年度	30,395	141.7%
平成 24 年度	70,903	233.2%
平成 25 年度	91,285	128.7%
平成 26 年度	107,823	117.4%
平成 27 年度	106,135	98.4%

＊平成 22 年度及び平成 23 年度実績については、国庫補助事業「青少年等献血ふれあい事業」「若年層献血セミナー事業」の実施報告に基づく。

4. 今後の方針

『献血推進 2020』の目標値達成に向け、引き続き 10 代の特に高校生の初回献血者及び 400mL 献血を中心とした確保に努める。

さらに、献血の現状及び重要性・必要性を踏まえた献血セミナーを積極的に実施し、高校生はもとより小学生・中学生また専門学生や大学生までの幅広い若年層に啓発を一層努める。

関係省庁との連携強化はもとより、都道府県・教育委員会・学校長会・養護教諭会等と献血教育・啓発に理解をいただき、若年層の献血行動を推進していく取り組みを行うこととする。

具体的には献血推進協議会等を通じて、ライオンズクラブ・各学生献血推進団体等の関係団体と働きかけを増加していきたい。

また、企業・事業所の献血実施前の献血セミナーを増加していくことにより、20代・30代の献血行動を促す働きかけについても関係機関との協力を強化し、国民運動としての献血運動を継続かつ、取り組んでいく。

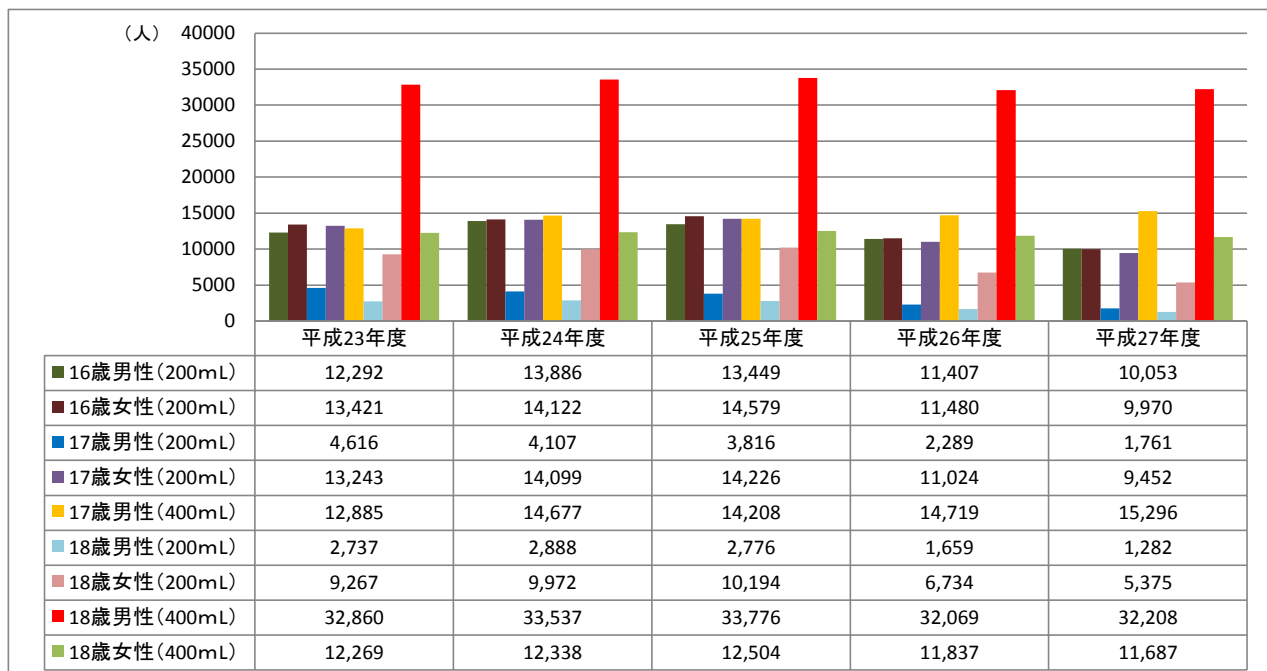
16歳～18歳 献血者実績について

200mL

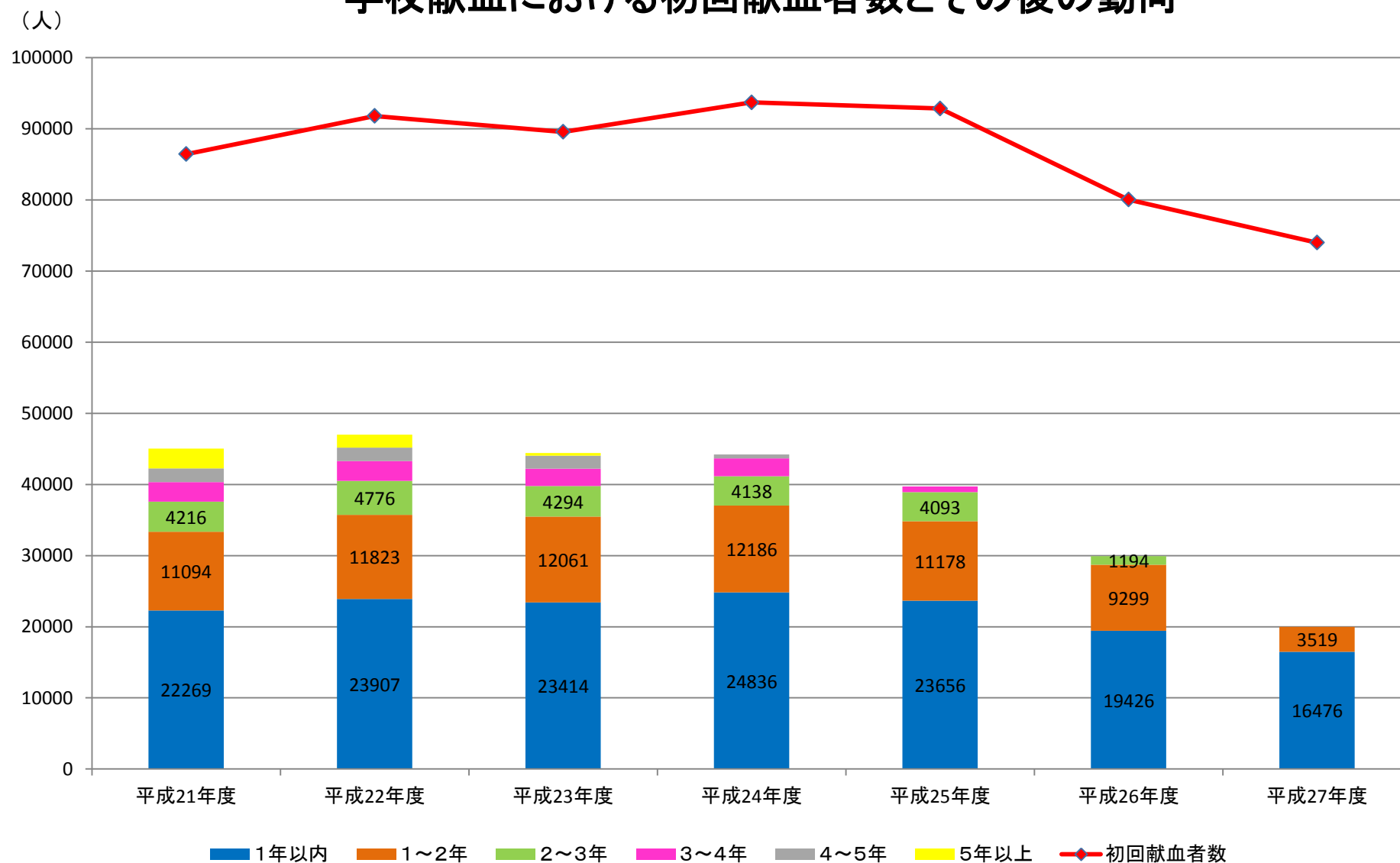
		(人)				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
16歳男性		15,463	17,527	17,278	14,697	12,754
	初回	12,292	13,886	13,449	11,407	10,053
	初回割合	79.5%	79.2%	77.8%	77.6%	78.8%
16歳女性		17,088	18,171	19,165	15,783	13,673
	初回	13,421	14,122	14,579	11,480	9,970
	初回割合	78.5%	77.7%	76.1%	72.7%	72.9%
17歳男性		6,924	5,998	5,762	3,656	2,688
	初回	4,616	4,107	3,816	2,289	1,761
	初回割合	66.7%	68.5%	66.2%	62.6%	65.5%
17歳女性		24,330	25,338	26,895	23,174	19,351
	初回	13,243	14,099	14,226	11,024	9,452
	初回割合	54.4%	55.6%	52.9%	47.6%	48.8%
18歳男性		3,839	3,955	3,823	2,424	1,789
	初回	2,737	2,888	2,776	1,659	1,282
	初回割合	71.3%	73.0%	72.6%	68.4%	71.7%
18歳女性		15,754	17,056	17,856	13,252	9,805
	初回	9,267	9,972	10,194	6,734	5,375
	初回割合	58.8%	58.5%	57.1%	50.8%	54.8%

400mL

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
17歳男性		19,972	22,581	22,939	23,421	23,426
	初回	12,885	14,677	14,208	14,719	15,296
	初回割合	64.5%	65.0%	61.9%	62.8%	65.3%
18歳男性		46,573	50,509	51,747	50,568	51,089
	初回	32,860	33,537	33,776	32,069	32,208
	初回割合	70.6%	66.4%	65.3%	63.4%	63.0%
18歳女性		19,500	19,690	19,977	20,977	21,218
	初回	12,269	12,338	12,504	11,837	11,687
	初回割合	62.9%	62.7%	62.6%	56.4%	55.1%



学校献血における初回献血者数とその後の動向



高校献血の現状等について

1 目的

高校献血（公立・私立）の現状等を調査して、高校献血が増加しない理由等を検討する。

2 調査期間

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

3 調査方法

各血液センターに対して調査を行った。（各血液センターの回答である。）

4 結果

- （１）公立高校と私立高校の実施率を比較すると若干私立高校の方が高い状況である。（公立高校：24.5%、私立高校：28.7%）また、私立高校は複数回実施率が 20%以上である。
- （２）公立高校と私立高校も授業中に実施している場合が最も多く、次に学園祭等の行事にあわせて実施している状況である。
- （３）公立・私立高校とも実施時期は二学期に実施する割合が約 60%である。
- （４）公立高校で約 80%、私立高校で約 70%が養護教諭が窓口となっている。
- （５）実施の理由は、血液センターからの要請が全体の 50%以上を占めており、次に公立高校が自治体からの要請（約 25%）となり私立高校では、授業の一環（約 30%）であった。
- （６）学校の反対と回答した公立高校での反対理由が管理責任（56.8%）、私立高校での反対理由が授業に差し支える（68.5%）であった。
- （７）管内教職員向けの研修会を実施している公立高校は 167 校（約 5%）で実施している、私立高校は 35 校（約 2.6%）である。
- （８）校長会に説明したことがあると回答した血液センターは、26 センターであった。

5 考察

高校献血は、設置校全体の約 26%で実施されている。今後、増加させるためには、実施時期等も学校側と十分協議して実施していく必要がある。養護教諭が高校献血の窓口になっていることが多いことから、献血実施出来ない高校には、「学校における献血に触れ合う機会の受け入れ」の通知に基づく、献血セミナーの実施をより高校側に検討いただくよう継続的な啓発が必要である。

血液事業部会献血推進調査会に係る調査について

【1】高校献血を実施についてご回答ください。(平成26年度実績)

			公立高校	私立高校
1	実施高校数を教えてください。	実施校数／設置校数	888 / 3,630 校	393 / 1,367 校
2	一校あたりの年間実施回数を教えてください。	1回	826	322
		2回	57	60
		3回以上	5	11
		その他	0	0
3	一日のうちのどの時間に実施していますか？	授業時間中	554	283
		昼休み等休憩時間	45	7
		課外活動の時間	7	1
		放課後	99	17
		学園祭等の行事	127	69
		その他	56	16
4	一年のうちのどの時期に実施していますか？	一学期前半	16	10
		一学期後半	104	56
		二学期前半	283	108
		二学期後半	306	126
		三学期	179	93
5	実施にあたる窓口はどこですか？	養護教諭	694	255
		保健体育教諭	38	20
		その他の教職員	134	103
		事務職員	9	3
		生徒会	8	7
		PTA	1	0
		その他	4	5
6	実施の理由は何ですか？	血液センターの要請	467	231
		自治体の要請	226	46
		授業の一環	94	70
		生徒の要望	9	8
		その他	92	38

【2】学校からの依頼はありますか。(平成26年度実績)

			公立高校	私立高校
1	依頼のある校数を教えて	実施校数／設置校数	224 / 3,630 校	125 / 1,367 校
2	依頼元はどこですか？	教務担当等の教職員	212	116
		生徒	2	0
		PTA	0	0
		生徒会	3	4
		学園祭実行委員会	3	2
		その他	4	3

			公立高校	私立高校
3	学校からの依頼が無い理由は何ですか？	学校の反対	424	124
		保護者の反対	1	0

	※「 <u>学校の反対</u> 」と回答した高校		公立高校	私立高校
4	反対している理由は何ですか？	授業に差し支える	173	85
		高校生の献血反対	1	0
		管理責任	241	36
		その他	9	3

【3】管内教職員向けの研修会を実施していますか。(平成26年度実績)

			公立高校	私立高校
1	実施校数を教えてください。	実施校数／設置校数	167 / 3,630 校	35 / 1,367 校
2	年間実施回数を教えてください。	1回	158※1	33
		2回以上	3	2

※1: 京都センターが合同で実施のため実施校数と実施回数に齟齬あり。

【4】校長会における高校献血及び献血セミナーに関する説明の機会について

1	校長会において献血の説明をしたことがありますか。	ある	26	ない	21
---	--------------------------	----	----	----	----

	【ある】と回答したセンター		
2	説明の時期について	毎年 (11センター)	4月(4センター)、5月(3センター)、6月(1センター)、11月(1センター) 1月(1センター)、不定期(1センター)
		H23年 (1センター)	3月(1センター)
		H25年 (4センター)	1月(1センター)、9月(1センター)、12月(1センター)、年度(1センター)
		H26年 (6センター)	4月(2センター)、5月(1センター)、8月(1センター)、9月(1センター) 11月(1センター)
		H27年 (7センター)	2月(2センター)、3月(1センター)、4月(2センター)、5月(1センター) 6月(1センター)
3	説明内容の概略を記入してください。	校長会にて所長による献血についての講演を実施し、以下の内容を説明。 ・輸血用血液の使われ方 ・血液検査結果通知について ・献血者の安全確保対策(健康被害救済制度等) ・県内の高校献血実施状況 ・高校での献血セミナー実施状況 ・県内の年代別献血者数、必要献血者延べ人数シミュレーション等のグラフを示し、若年層への献血の推進の必要性を説明。 ・高等学校学習指導要領解説保健体育編体育編における献血に関する掲載、厚生労働省→文部科学省→各教育委員会等への「献血に触れ合う機会の受入れ」依頼について説明し、献血及びセミナーの受入れを改めて依頼。 平成23年4月1日採血基準の変更に伴い、高校校長会にて内容説明(男性年齢:18歳から17歳に引き下げられた理由等) グラフを用いて新潟県における高校生の献血状況を説明し、献血への動機づけとして「献血普及講演会」の実施協力をお願いしている。 年数回開催される高校校長会の中の「その他連絡事項」で、県の関係部署からの連絡・お願いする枠に数分間いただき、学校献血・献血セミナーのお願いや実施状況を含む現状等を話している。 ・血液の必要性 ・現在の献血者の状況 ・若年層の献血状況について ・学校や送迎等での献血協力の依頼 県の担当者から県内の年代別献血数の推移、献血セミナー及び高校献血の実施状況等を説明し、協力を呼び掛けた。 ・血液事業の概要等を事前配布資料に沿って説明する。(10分程)	

【5】職場説明会について

1	平成25年度・平成26年度に企業献血において献血説明会※を実施したことがありますか。	ある	24	ない	23
---	--	----	----	----	----

※担当者間での献血に関する説明は除く

	【ある】と回答したセンター	
2	実施回数について	平成25年度 33 回
		平成26年度 44 回
3	説明内容の概略を記入してください。	献血実施前、新入社員を対象に「献血の現状および献血実施前の注意事項」について説明する 保険会社に出向き、朝礼時に献血状況を説明し、各ルームや献血バスでの協力を依頼した。 血液事業の現状、概要説明他 スライドを使って、献血の現状(採血と供給)、献血の種類、献血の流れ、採血基準等を説明している。 「愛のかたち献血」使用 献血に関して全般 近年の現状について(協力団体の減少・年間複数回協力・400mL献血推進) 献血実施日の周知 400mL献血の協力依頼 献血前の注意事項(アルコールを飲まない) 職員組合が、40代向けに「健康管理」を企画・開催し、血液センターも1時間枠で、献血セミナーを実施した。 県内の事業所及び推進団体(36団体)で構成している、「ぎふ献血サポーターズクラブ」の各担当者が出席する総会にて、献血の現状等説明を行っている。 献血について ・DVD上映 ・パネル展示 ・車輛見学 ・輸血用血液の安定確保について ・400mL献血の必要性について 県内の大企業の本田技研鈴鹿製作所の従業員に、献血の現状及び若年者の献血離れ等の説明を行った。 ・日本赤十字社の概略 ・献血とは・・・ ・献血のゆくえ ・献血の歴史 ・献血と輸血の今 ・献血〇×クイズ (30分程度で実施) 献血の歴史・現状説明。赤十字でのPR内容の紹介(CM等) 輸血の歴史、血液が人工では作れない事。血液事業の中身。献血推進について、若年層への推進について。

職業別・採血種別延べ献血者数(10代～30代)

10代

高校生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	123,679	92,509	86,634	84,772	90,847	73,470	77,578	79,693	64,861	54,003
400mL	26,497	26,140	24,352	24,557	26,733	45,611	51,078	51,542	53,449	53,641
PPP	3,961	4,080	4,934	4,464	3,189	2,987	3,524	3,098	2,298	2,444
PC+PPP	3,988	3,273	2,914	2,796	2,707	2,234	2,512	2,491	2,311	1,750
合計	158,125	126,002	118,834	116,589	123,476	124,302	134,692	136,824	122,919	111,838

大学生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	23,421	14,791	13,157	13,029	13,656	12,203	12,605	14,214	10,363	7,586
400mL	57,357	58,945	59,088	58,822	61,017	59,210	60,911	62,385	60,499	59,190
PPP	8,151	9,837	12,210	11,684	8,106	6,997	7,430	6,954	5,431	6,035
PC+PPP	10,039	9,675	9,103	7,975	7,623	6,415	6,346	6,340	5,724	4,700
合計	98,968	93,248	93,558	91,510	90,402	84,825	87,292	89,893	82,017	77,511

その他学生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	17,641	10,897	8,477	7,746	8,265	7,684	7,830	7,951	5,433	3,631
400mL	37,275	36,039	31,839	28,765	30,407	29,036	29,709	30,372	28,980	28,048
PPP	5,041	5,611	6,492	5,607	3,841	3,233	3,277	3,224	2,379	2,506
PC+PPP	5,652	5,164	4,306	3,391	3,234	2,561	2,699	2,784	2,275	1,859
合計	65,609	57,711	51,114	45,509	45,747	42,514	43,515	44,331	39,067	36,044

その他	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	10,973	6,966	6,175	6,093	5,381	4,750	4,673	4,403	3,366	2,420
400mL	27,474	29,889	30,041	29,054	26,893	25,397	25,338	25,921	26,530	27,376
PPP	2,438	2,352	2,922	2,733	1,830	1,589	1,691	1,605	1,217	1,250
PC+PPP	3,015	2,691	2,375	2,208	2,046	1,644	1,722	1,843	1,697	1,368
合計	43,900	41,898	41,513	40,088	36,150	33,380	33,424	33,772	32,810	32,414

合計	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	175,714	125,163	114,443	111,640	118,149	98,107	102,686	106,261	84,023	67,640
400mL	148,603	151,013	145,320	141,198	145,050	159,254	167,036	170,220	169,458	168,255
PPP	19,591	21,880	26,558	24,488	16,966	14,806	15,922	14,881	11,325	12,235
PC+PPP	22,694	20,803	18,698	16,370	15,610	12,854	13,279	13,458	12,007	9,677
合計	366,602	318,859	305,019	293,696	295,775	285,021	298,923	304,820	276,813	257,807

職業別・採血種別延べ献血者数(10代～30代)

20代

公務員	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	13,040	8,333	6,964	6,808	6,376	6,323	6,457	6,460	4,583	3,023
400mL	71,094	73,530	72,402	72,030	73,083	73,978	76,306	77,663	77,964	78,825
PPP	15,173	15,033	16,827	15,813	12,257	12,298	11,516	10,227	8,003	8,819
PC+PPP	20,995	19,755	18,134	16,832	16,538	14,335	14,020	13,654	12,356	10,021
合計	120,302	116,651	114,327	111,483	108,254	106,934	108,299	108,004	102,906	100,688

会社員	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	89,825	62,314	55,487	50,102	48,053	44,618	41,643	39,038	28,339	18,550
400mL	295,422	314,807	325,446	326,086	327,947	318,902	312,905	300,872	296,385	292,842
PPP	72,018	78,981	98,053	98,648	75,448	71,709	69,116	59,851	46,858	49,938
PC+PPP	90,012	87,831	85,745	84,004	83,542	73,027	70,089	67,044	60,114	50,265
合計	547,277	543,933	564,731	558,840	534,990	508,256	493,753	466,805	431,696	411,595

高校生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	551	246	237	270	270	190	246	169	151	102
400mL	1,276	1,029	1,006	1,070	1,213	1,026	969	893	1,142	1,006
PPP	343	211	290	307	219	165	149	143	63	49
PC+PPP	322	190	232	232	190	130	94	93	56	53
合計	2,492	1,676	1,765	1,879	1,892	1,511	1,458	1,298	1,412	1,210

大学生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	28,674	19,785	17,753	17,408	17,908	16,801	16,862	17,141	12,531	9,019
400mL	95,951	103,735	107,910	110,508	116,526	114,195	116,323	115,658	110,079	105,144
PPP	29,895	33,684	42,409	41,770	31,403	28,542	27,719	24,409	18,282	18,960
PC+PPP	41,515	40,989	39,579	37,207	36,813	31,123	29,840	27,929	24,228	19,558
合計	196,035	198,193	207,651	206,893	202,650	190,661	190,744	185,137	165,120	152,681

その他学生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	17,208	9,644	7,820	6,997	6,651	5,738	5,853	5,757	4,019	2,739
400mL	48,775	42,994	39,045	36,775	36,608	34,337	33,641	32,472	31,356	29,925
PPP	17,794	15,258	16,327	14,306	9,980	8,261	7,743	6,428	4,738	4,531
PC+PPP	22,503	16,741	13,063	11,438	10,560	8,030	7,392	6,791	5,761	4,237
合計	106,280	84,637	76,255	69,516	63,799	56,366	54,629	51,448	45,874	41,432

主婦	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	6,200	4,081	3,553	3,410	3,171	3,001	2,660	2,387	1,604	930
400mL	6,096	6,629	6,521	6,508	6,509	6,216	5,684	5,068	4,683	4,423
PPP	2,995	3,214	3,731	3,791	2,773	2,410	2,298	1,985	1,485	1,360
PC+PPP	2,025	2,042	1,795	1,739	1,638	1,410	1,303	1,225	900	693
合計	17,316	15,966	15,600	15,448	14,091	13,037	11,945	10,665	8,672	7,406

自営業	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	799	499	405	410	429	377	377	372	246	178
400mL	6,356	6,331	6,142	6,112	6,094	5,700	5,587	4,987	4,791	4,676
PPP	942	1,016	1,160	1,166	886	1,025	1,000	866	630	752
PC+PPP	1,757	1,622	1,587	1,475	1,556	1,499	1,436	1,274	1,095	939
合計	9,854	9,468	9,294	9,163	8,965	8,601	8,400	7,499	6,762	6,545

その他	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	30,554	18,950	16,008	14,886	14,244	12,434	11,468	10,412	6,853	3,833
400mL	70,562	69,752	67,210	67,590	69,415	65,937	62,644	58,210	54,215	50,917
PPP	32,508	32,780	37,666	36,616	27,759	24,736	22,497	19,223	14,361	14,628
PC+PPP	40,281	36,326	33,803	31,978	32,360	26,489	25,068	22,831	19,855	15,936
合計	173,905	157,808	154,687	151,070	143,778	129,596	121,677	110,676	95,284	85,314

合計	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	186,851	123,852	108,227	100,291	97,102	89,482	85,566	81,736	58,326	38,374
400mL	595,532	618,807	625,682	626,679	637,395	620,291	614,059	595,823	580,615	567,758
PPP	171,668	180,177	216,463	212,417	160,725	149,146	142,038	123,132	94,420	99,037
PC+PPP	219,410	205,496	193,938	184,905	183,197	156,043	149,242	140,841	124,365	101,702
合計	1,173,461	1,128,332	1,144,310	1,124,292	1,078,419	1,014,962	990,905	941,532	857,726	806,871

職業別・採血種別延べ献血者数(10代～30代)

30代

公務員	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	16,297	10,866	9,146	8,242	8,007	7,170	6,418	5,600	3,671	2,088
400mL	127,333	130,376	129,020	125,246	124,250	119,727	115,366	108,966	103,795	99,752
PPP	20,156	21,327	23,314	23,288	18,980	18,564	17,020	14,668	11,220	11,996
PC+PPP	38,874	38,203	36,883	34,496	33,683	30,158	28,830	26,546	24,486	20,240
合計	202,660	200,772	198,363	191,272	184,920	175,619	167,634	155,780	143,172	134,076

会社員	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	88,576	63,368	56,016	51,508	49,584	44,835	40,705	36,297	25,297	15,910
400mL	512,969	542,319	556,596	559,588	559,386	539,821	510,620	475,327	455,685	433,393
PPP	87,944	97,636	118,819	123,469	100,586	102,656	97,188	84,906	67,148	72,196
PC+PPP	158,469	160,026	163,772	168,481	170,592	153,759	146,034	135,722	123,640	103,650
合計	847,958	863,349	895,203	903,046	880,148	841,071	794,547	732,252	671,770	625,149

高校生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	7	6	7	5	13	4	6	4	6	6
400mL	42	28	44	52	53	45	40	43	115	115
PPP	8	11	17	20	10	4	3	2	2	2
PC+PPP	3	7	4	11	5	1	1	2	2	5
合計	60	52	72	88	81	54	50	51	125	128

大学生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	160	117	95	89	76	66	61	77	51	22
400mL	692	764	743	757	797	752	819	837	842	887
PPP	297	308	305	343	256	314	296	279	243	235
PC+PPP	508	437	399	457	468	396	382	418	398	352
合計	1,657	1,626	1,542	1,646	1,597	1,528	1,558	1,611	1,534	1,496

その他学生	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	1,053	643	572	597	608	565	495	474	356	241
400mL	3,678	3,421	3,384	3,615	3,955	3,768	3,494	3,164	3,020	2,762
PPP	1,212	1,236	1,508	1,497	1,098	1,001	1,068	931	584	527
PC+PPP	1,760	1,552	1,492	1,358	1,426	1,319	1,174	1,001	825	620
合計	7,703	6,852	6,956	7,067	7,087	6,653	6,231	5,570	4,785	4,150

主婦	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	30,027	20,170	17,298	16,724	15,670	13,882	12,157	10,452	6,808	3,785
400mL	37,371	39,249	40,292	39,650	40,195	37,723	33,235	29,339	26,282	23,468
PPP	14,127	15,733	18,965	19,865	16,467	15,040	13,820	11,460	8,405	7,806
PC+PPP	12,225	12,206	11,803	11,277	11,938	10,400	9,465	8,357	7,269	5,756
合計	93,750	87,358	88,358	87,516	84,270	77,045	68,677	59,608	48,764	40,815

自営業	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	2,541	1,535	1,262	1,185	1,118	1,008	998	933	561	310
400mL	24,689	26,024	26,120	26,533	26,573	25,441	23,232	20,749	19,293	17,821
PPP	3,346	3,793	4,475	4,548	3,835	3,856	3,448	2,859	2,118	2,285
PC+PPP	7,207	7,681	7,550	8,117	8,360	7,173	6,623	6,003	5,224	4,127
合計	37,783	39,033	39,407	40,383	39,886	37,478	34,301	30,544	27,196	24,543

その他	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	28,156	18,549	16,191	15,203	14,575	12,864	11,325	10,011	6,468	3,601
400mL	71,779	73,213	73,339	75,732	76,725	73,185	68,708	63,580	60,693	57,387
PPP	31,892	33,520	38,861	40,167	32,793	30,562	28,576	24,982	19,055	19,709
PC+PPP	44,842	43,196	42,247	43,154	44,527	39,499	36,960	34,491	31,816	26,971
合計	176,669	168,478	170,638	174,256	168,620	156,110	145,569	133,064	118,032	107,668

合計	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015
200mL	166,817	115,254	100,587	93,553	89,651	80,394	72,165	63,848	43,218	25,963
400mL	778,553	815,394	829,538	831,173	831,934	800,462	755,514	702,005	669,725	635,585
PPP	158,982	173,564	206,264	213,197	174,025	171,997	161,419	140,087	108,775	114,756
PC+PPP	263,888	263,308	264,150	267,351	270,999	242,705	229,469	212,540	193,660	161,721
合計	1,368,240	1,367,520	1,400,539	1,405,274	1,366,609	1,295,558	1,218,567	1,118,480	1,015,378	938,025

青少年等献血ふれあい・若年者献血セミナー事業実施状況について(平成23年度から平成27年度)

平成23年度青少年等献血ふれあい・若年者献血セミナー事業実施状況について

対象者	青少年等献血ふれあい事業				若年者献血セミナー事業				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
小学生	597	100.3%	13,503	102.3%					597	100.3%	13,503	102.3%
中学生			3,795	58.6%							3,795	58.6%
高校生							30,395	141.7%			30,395	141.7%
専門学生							4,587	106.3%			4,587	106.3%
大学生							7,691	116.4%			7,691	116.4%
その他							23,854	117.2%			23,854	117.2%
合計	597	100.3%	17,298	87.9%	459	116.5%	66,527	126.2%	1,056	106.8%	83,825	115.8%

平成24年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等の外部施設での開催実績				血液センター等の内部施設での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
小学生	79		6,369		135		4,933		214		11,302	
中学生	93		10,660		51		455		144		11,115	
高校生	442		68,484		41		2,419		483		70,903	
専門学生	44		5,302		40		1,155		84		6,457	
大学生	101		6,301		99		1,411		200		7,712	
その他	138		11,625		42		4,045		180		15,670	
合計	897		108,741		408		14,418		1,305		123,159	

*平成24年度より「献血セミナー」実施報告書として新たに様式を作成した。なお、平成23年度までは国庫補助事業の実施報告様式となっている。

平成25年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等の外部施設での開催実績				血液センター等の内部施設での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
小学生	111	140.5%	7,473	117.3%	115	85.2%	4,431	89.8%	226	105.6%	11,904	105.3%
中学生	116	124.7%	18,308	171.7%	43	84.3%	463	101.8%	159	110.4%	18,771	168.9%
高校生	483	109.3%	89,124	130.1%	123	300.0%	2,161	89.3%	606	125.5%	91,285	128.7%
専門学生	91	206.8%	6,971	131.5%	27	67.5%	830	71.9%	118	140.5%	7,801	120.8%
大学生	168	166.3%	12,456	197.7%	77	77.8%	1,080	76.5%	245	122.5%	13,536	175.5%
その他	159	115.2%	6,366	54.8%	40	95.2%	1,374	34.0%	199	110.6%	7,740	49.4%
合計	1,128	125.8%	140,698	129.4%	425	104.2%	10,339	71.7%	1,553	119.0%	151,037	122.6%

平成26年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等の外部施設での開催実績				血液センター等の内部施設での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
小学生	94	84.7%	8,777	117.4%	91	79.1%	4,150	93.7%	185	81.9%	12,927	108.6%
中学生	108	93.1%	14,559	79.5%	34	79.1%	281	60.7%	142	89.3%	14,840	79.1%
高校生	523	108.3%	106,333	119.3%	56	45.5%	1,490	68.9%	579	95.5%	107,823	118.1%
専門学生	63	69.2%	6,661	95.6%	45	166.7%	1,485	178.9%	108	91.5%	8,146	104.4%
大学生	87	51.8%	7,776	62.4%	92	119.5%	1,205	111.6%	179	73.1%	8,981	66.3%
その他	99	62.3%	4,454	70.0%	40	100.0%	1,026	74.7%	139	69.8%	5,480	70.8%
合計	974	86.3%	148,560	105.6%	358	84.2%	9,637	93.2%	1,332	85.8%	158,197	104.7%

平成27年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等の外部施設での開催実績				血液センター等の内部施設での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
小学生	100	106.4%	8,861	101.0%	105	115.4%	4,634	111.7%	205	110.8%	13,495	104.4%
中学生	163	150.9%	21,339	146.6%	48	141.2%	378	134.5%	211	148.6%	21,717	146.3%
高校生	514	98.3%	104,874	98.6%	46	82.1%	1,261	84.6%	560	96.7%	106,135	98.4%
専門学生	67	106.3%	6,711	100.8%	40	88.9%	1,045	70.4%	107	99.1%	7,756	95.2%
大学生	165	189.7%	17,461	224.5%	74	80.4%	1,110	92.1%	239	133.5%	18,571	206.8%
その他	202	204.0%	11,167	250.7%	48	120.0%	944	92.0%	250	179.9%	12,111	221.0%
合計	1,211	124.3%	170,413	114.7%	361	100.8%	9,372	97.3%	1,572	118.0%	179,785	113.6%

平成 28 年 12 月 15 日
日本赤十字社血液事業本部

献血に係るアンケート調査結果について

1 目的

初めて献血した方（初回献血者）、献血後 1 年以上期間が経過した後に献血に再来した方（再来献血者）の理由を分析して複数回献血につなげる。

2 調査期間

平成 27 年 12 月 3 日～平成 27 年 12 月 16 日

3 調査方法

東京都・大阪府赤十字血液センター除く血液センターにおいて、移動採血・固定施設で実施した。

4 結果

（1）初回献血者

- ◆全体で 6,363 人であり、10 代（57.2%）、20 代（25.3%）となり全体の 80%以上であった。
- ◆動機は、高校生（2,466 人）、大学・専門学校生（1,442 人）であったこともあり、①献血バスが学校にきたから（1,453 人）、②献血可能年齢になったから（1,113 人）、③友達から誘われた（993 人）という結果であった。
- ◆献血については、①献血セミナー（1,402 人）、②献血会場内の告知（1,330 人）、③テレビ（859 人）から知ったという結果であった。
- ◆献血のイメージは、①患者さんのため（3,607 人）、②社会に役立つ（3,548 人）、③痛い（1,218 人）であった。
- ◆今後も協力いただけるかについての回答は、はい（4,619 人）、機会があれば（1,645 人）であった。

（2）再来献血者

- ◆全体で 10,458 人であり、40 代（29.7%）、50 代（21.4%）、60 代（6.3%）となり全体の約 60%であった。
- ◆前回の献血からの期間で、4 年以上（3,821 人）、1 年（3,784 人）で全体の 75%を占めている。
- ◆前回からの献血協力の期間があいた理由は、①機会がなかった（6,445 人）②忙しかった（2,093 人）と全体の 85%を占めている。
- ◆今回献血に来られた理由は、①社会に役立つ（5,320 人）、②患者さんのため（2,972 人）、③献血バスが職場にきたから（2,712 人）であった。
- ◆今後も協力いただけるかについての回答は、はい（9,035 人）、機会があれば（1,347 人）であった。

5 考察

初回献血者も献血を経験すると、次回献血をする意思が高くなることがわかった。若年層も早い段階での献血経験が必要であることから、早い段階での献血協力ができる環境及び献血思想の啓発等で献血にふれあう機会を創作する必要がある。再来献血者は、年代層が 30 歳以上が全体の約 80%となることから、①機会がなかった、②忙しかったという回答が多く、一方社会貢献意識が高く、機会が合えば献血するという結果となったことから、献血できる場をどう創作していくかを検討する必要がある。

献血に係るアンケート(初回者)

【1】 年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計			
人数	3,375	1,775	570	427	174	42	6,363			
構成率	53.0%	27.9%	9.0%	6.7%	2.7%	0.7%	100.0%			
【2】 性別	男性	女性	合計							
人数	4,178	2,185	6,363							
構成率	65.7%	34.3%	100.0%							
【3】 職業	高校生	大学・専門 学校生	会社員	自営業	公務員	その他	合計			
人数	2,476	1,442	1,624	90	346	385	6,363			
構成率	38.9%	22.7%	25.5%	1.4%	5.4%	6.1%	100.0%			
【4】 献血場所	血液セン ター	献血ルーム	職場	高校	大学・専門 学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域の イベント	それ以外 の会場	合計
人数	298	1,442	1,006	1,986	967	329	131	34	170	6,363
構成率	4.7%	22.7%	15.8%	31.2%	15.2%	5.2%	2.1%	0.5%	2.7%	100.0%

献血に係るアンケート(初回者)【合計】

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	1693	874	1179	63	274	95	166	698	780	1444	669	198	83	20	120
女性	783	568	445	27	72	290	132	744	226	542	298	131	48	14	50
合計	2476	1442	1624	90	346	385	298	1442	1006	1986	967	329	131	34	170

6363

6363

問1 今回献血をしようと思った動機を教えてください。(複数回答可)				
		合計	男性	女性
1. 献血可能年齢になったから		1,113	684	429
	子ども	37	20	17
	両親	222	123	99
	友人	993	584	409
	職員	795	661	134
2. 誘われたから	その他	270	195	75
3. 施設や献血バスの看板・案内図を見たから		926	497	429
4. 献血セミナーを受けたから		98	60	38
5. 献血バスが学校に来たから		1,453	987	466
6. 献血バスが職場に来たから		612	442	170
7. 報道(テレビ番組やテレビCM等)をみて		214	121	93
8. 献血のイベントに参加して		80	59	21
9. その他		843	472	346
		その他(コメント)		

問2 「献血」をどこで知りましたか。(複数回答可)				
		合計	男性	女性
1. 日本赤十字社のホームページ		513	320	193
2. 献血会場内の告知		1,330	863	467
3. 武道館コンサート		38	26	12
4. 血液センターのイベント		304	194	110
5. 献血推進のキャンペーン		832	517	315
6. 報道	新聞	158	106	52
	テレビ	859	561	298
	ラジオ	173	126	47
	ネット	216	147	69
	雑誌等	80	53	27
	その他	82	53	29
7. 日本赤十字社が発行している広報誌		289	180	109
8. 献血セミナー	学校	1,402	952	450
	職場	320	252	68
	各種会合等	8	5	3
	その他	17	12	5
9. その他		974	525	449
		その他(コメント)		

問3 今までの「献血」のイメージを教えてください。(複数回答可)				
		合計	男性	女性
1. 患者さんのため		3,607	2,301	1,306
2. 社会に役立つ		3,548	2,291	1,257
3. 痛い		1,218	768	450
4. 怖い		700	450	250
5. 何に使われているか分からない		140	108	32
6. その他		106	70	36
		その他(コメント)		

問4 献血をして良かったですか。				
		合計	男性	女性
1. よかった		5,867	3,785	2,082
2. どちらともいえない		491	389	102
3. よくなかった。		5	4	1

【理由】

6,363

問5 痛みはどうでしたか。				
		合計	男性	女性
1. 痛かった		1,097	694	403
2. 思っていたより痛くなかった		3,782	2,462	1,320
3. 全く痛くなかった		1,484	1,022	462

6,363

問6 スタッフ(医師、看護師、受付職員等)の対応について教えてください。				
		合計	男性	女性
1. よかった		6,098	3,982	2,116
2. 普通		263	195	68
3. 悪かった		2	1	1

【理由】

6,363

問7 これからも献血にご協力いただけますか。				
		合計	男性	女性
1. はい		4619	2862	1757
2. いいえ		13	10	3
3. 機会があれば		1645	1240	405
4. わからない		80	61	19
5. その他		6	5	1

6363

問8 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。				

献血に係るアンケート(初回者)【10代】

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学校	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	1,453	482	173	4	85	20	61	277	167	1,212	398	52	14	7	29
女性	745	278	74	6	13	42	68	310	51	512	151	43	11	4	8
合計	2,198	760	247	10	98	62	129	587	218	1,724	549	95	25	11	37

3,375

3,375
問1 今回献血をしようと思った動機を教えてください。(複数回答可)

		合計	男性	女性	
1. 献血可能年齢になったから		914	546	368	
2. 誘われたから	子ども	16	9	7	
	両親	156	92	64	
	友人	611	372	239	
	職員	322	275	47	
	その他	85	68	17	
3. 施設や献血バスの看板・案内図を見たから		291	154	137	・ボランティアになればと思ったから ・ラジオを聞いて ・興味があった 他
4. 献血セミナーを受けたから		72	44	28	
5. 献血バスが学校に来たから		1,042	691	351	
6. 献血バスが職場に来たから		141	105	36	
7. 報道(テレビ番組やテレビCM等)をみて		90	50	40	
8. 献血のイベントに参加して		35	24	11	
9. その他		399	224	150	
その他(コメント)					

問2 「献血」をどこで知りましたか。(複数回答可)

		合計	男性	女性	
1. 日本赤十字社のホームページ		247	163	84	
2. 献血会場内の告知		497	321	176	・ツイッター ・駅前 ・家族がしていたから 他
3. 武道館コンサート		25	17	8	
4. 血液センターのイベント		151	96	55	
5. 献血推進のキャンペーン		389	251	138	
6. 報道	新聞	93	60	33	
	テレビ	468	292	176	
	ラジオ	82	61	21	
	ネット	123	87	36	
	雑誌等	49	33	16	
	その他	44	31	13	
7. 日本赤十字社が発行している広報誌		175	114	61	・ツイッター ・駅前 ・家族がしていたから 他
8. 献血セミナー	学校	1,055	716	339	
	職場	67	53	14	
	各種会合等	4	4	0	
	その他	7	5	2	
9. その他		495	263	232	
その他(コメント)					

問3 今までの「献血」のイメージを教えてください。(複数回答可)

		合計	男性	女性	
1. 患者さんのため		1,967	1,252	715	
2. 社会に役立つ		1,857	1,199	658	・時間がかかる ・人の役に立てる ・針が太い 他
3. 痛い		674	438	236	
4. 怖い		367	243	124	
5. 何に使われているかわからない		72	54	18	
6. その他		50	37	13	
その他(コメント)					

問4 献血をして良かったですか。

		合計	男性	女性	【理由】
1. よかった		3,144	2,039	1,105	
2. どちらともいえない		228	175	53	・思っていたよりも痛くない。患者さんにこの血が使われるとうれしい。 ・協力してやってみただけで実際やってみたら怖かった ・誰かのためになるので 他
3. よくなかった。		3	3	0	

3,375
問5 痛みはどうでしたか。

		合計	男性	女性
1. 痛かった		689	434	255
2. 思っていたより痛くなかった		1,963	1,280	683
3. 全く痛くなかった		723	503	220

3,375
問6 スタッフ(医師、看護師、受付職員等)の対応について教えてください。

		合計	男性	女性	【理由】
1. よかった		3,262	2,136	1,126	
2. 普通		112	80	32	・笑顔で接してくれた ・説明をくわしくくださったので安心感があった。 ・緊張をほぐすためにたくさん話しかけてくれた。話しやすかった。 他
3. 悪かった		1	1	0	

3,375
問7 これからも献血にご協力いただけますか。

		合計	男性	女性
1. はい		2,505	1,564	941
2. いいえ		4	4	0
3. 機会があれば		817	609	208
4. わからない		46	37	9
5. その他		3	3	0

3,375
問8 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・初めてで緊張していましたが、痛みもほとんど無く、スタッフさんがとても優しく安心して出来ました。要望はパン以外に食べ物を増やしてほしいです。(クッキー、チョコ)
・針がコワイ
・人のためになってる気がしてよかった。
・もっと献血してくれる人が増えるようにした方が良い。してもなくてもいいっていう人がたくさんいる。
・学校にもっと来てほしい。自分が大学進学者なので、大学にも来てほしい。
・初めての献血で不安でしたが、スタッフのみなさんが優しくしてくださり、安心してすることができました！また来たいと思います。ありがとうございました。口
・初めて献血しましたが、とても良かったです。また、今回できなかった友達と来て、したいです。
・人のためになるので、積極的に献血を受けていこうと思った。
・もっと学校とかでやった方がいいと思います！

他

献血に係るアンケート(初回者)【20代】

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	147	354	469	11	135	45	65	235	366	142	238	54	22	7	32
女性	22	265	197	5	40	85	40	267	88	20	129	37	15	2	16
合計	169	619	666	16	175	130	105	502	454	162	367	91	37	9	48

1775

1775

問1 今回献血をしようと思った動機を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 献血可能年齢になったから	130	91	39
2. 誘われたから	子ども	6	4
	両親	51	23
	友人	247	134
	職員	300	248
	その他	89	61
3. 施設や献血バスの看板・案内図を見たから	334	175	159
4. 献血セミナーを受けたから	16	9	7
5. 献血バスが学校に来たから	318	222	96
6. 献血バスが職場に来たから	245	185	60
7. 報道(テレビ番組やテレビCM等)をみて	63	34	29
8. 献血のイベントに参加して	21	15	6
9. その他	220	119	101

その他(コメント)

・以前からしたいと思っており、ちょうど時間があつたから
・学校に掲示してあるポスター 他

問2 「献血」をどこで知りましたか。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 日本赤十字社のホームページ	160	89	71
2. 献血会場内の告知	471	303	168
3. 武道館コンサート	8	5	3
4. 血液センターのイベント	93	57	36
5. 献血推進のキャンペーン	258	166	92
6. 報道	新聞	32	23
	テレビ	246	173
	ラジオ	43	28
	ネット	68	44
	雑誌等	18	11
	その他	18	10
7. 日本赤十字社が発行している広報誌	79	44	35
8. 献血セミナー	学校	256	173
	職場	132	109
	各種会合等	1	1
	その他	5	4
9. その他	250	132	118

その他(コメント)

・おばあちゃんが入院して、輸血してもらっていて自分も社会に何かできたらと思って
・職場での案内をみて 他
・タイミングが合ったので

問3 今までの「献血」のイメージを教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	975	611	364
2. 社会に役立つ	974	632	342
3. 痛い	373	224	149
4. 怖い	216	134	82
5. 何に使われているかわからない	42	33	9
6. その他	34	19	15

その他(コメント)

・血を吸われてなくなりそう
・人のため、その血で助かる人がいる
・血をたくさん必要とする 他

問4 献血をして良かったですか。

	合計	男性	女性
1. よかった	1,606	1,022	584
2. どちらともいえない	168	139	29
3. よくなかった。	1	0	1

1,775

【理由】

・針を刺される痛みを知った
・想像していたより痛かったり、怖かったりせずすぐに終わったから
・目に見えた実感が無い 他

問5 痛みはどうでしたか。

	合計	男性	女性
1. 痛かった	279	174	105
2. 思っていたより痛くなかった	1,101	712	389
3. 全く痛くなかった	395	275	120

1,775

問6 スタッフ(医師、看護師、受付職員等)の対応について教えてください。

	合計	男性	女性
1. よかった	1,694	1,100	594
2. 普通	80	61	19
3. 悪かった	1		1

1,775

【理由】

・初めてということで「怖い」という気持ちをやわらげる対応をいただいた。
・普通の対応だから
・安心した 他

問7 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	1,204	722	482
2. いいえ	2	1	1
3. 機会があれば	549	425	124
4. わからない	18	12	6
5. その他	2	1	1

1,775

問8 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・針をもう少し細くしてほしい

・献血できて良かったです。どこかのどなたかの役に立てれば幸いです…ありがとうございました。

・献血は大事なことで知りました。

・人助けになるなら、また協力したいと思います。□

・初めてだったので、怖かったですが、献血ルームの雰囲気もよく、皆さん優しく、安心しました。ありがとうございました。

・意外とリラックスして、短時間でできた。

・痛くないと受けやすい。

他

献血に係るアンケート(初回者)【30代】

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	43	22	280	18	28	12	20	82	136	43	17	49	24	3	29
女性	9	16	84	4	9	45	11	63	38	6	10	17	6	4	12
合計	52	38	364	22	37	57	31	145	174	49	27	66	30	7	41

570

問1 今回献血をしようと思った動機を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 献血可能年齢になったから	36	26	10
2. 誘われたから	子ども	4	2
	両親	11	6
	友人	65	39
	職員	100	86
	その他	49	36
3. 施設や献血バスの看板・案内図を見たから	121	71	50
4. 献血セミナーを受けたから	2	1	1
5. 献血バスが学校に来たから	44	33	11
6. 献血バスが職場に来たから	106	77	29
7. 報道(テレビ番組やテレビCM等)をみて	26	16	10
8. 献血のイベントに参加して	10	10	0
9. その他	97	64	33

その他(コメント) ・街頭での声出しを聞いて
・青年部の活動として
・学校の実習で献血の機会があったから

他

問2 「献血」をどこで知りましたか。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 日本赤十字社のホームページ	55	35	20
2. 献血会場内の告知	170	121	49
3. 武道館コンサート	3	2	1
4. 血液センターのイベント	35	27	8
5. 献血推進のキャンペーン	88	53	35
6. 報道	新聞	9	6
	テレビ	72	45
	ラジオ	18	16
	ネット	16	11
	雑誌等	4	3
	その他	8	7
7. 日本赤十字社が発行している広報誌	14	9	5
8. 献血セミナー	学校	39	27
	職場	61	43
	各種会合等	1	0
	その他	1	1
9. その他	94	64	30

その他(コメント) ・職場の案内
・通りがかった
・学校に来てたから

他

問3 今までに「献血」のイメージを教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	302	207	95
2. 社会に役立つ	322	233	89
3. 痛い	95	56	39
4. 怖い	72	45	27
5. 何に使われているかわからない	12	9	3
6. その他	14	10	4

その他(コメント) ・針の使い回し
・自分の非常時の際に優先権がある?
・体調が悪くなりそう

他

問4 献血をして良かったですか。

	合計	男性	女性
1. よかった	513	354	159
2. どちらともいえない	57	49	8
3. よくなかった	0	0	0

570

【理由】

・手軽だったから
・やらなくちゃいけないかなあ〜と思いつつ怖くてなかなかやれなかったから。
・思っていたより痛くなく、これくらいの事で人の命が助かると思うと良い取り組みだと思えたから

他

問5 痛みはどうでしたか。

	合計	男性	女性
1. 痛かった	78	52	26
2. 思っていたより痛くなかった	342	239	103
3. 全く痛くなかった	150	112	38

570

問6 スタッフ(医師、看護師、受付職員等)の対応について教えてください。

	合計	男性	女性
1. よかった	535	376	159
2. 普通	35	27	8
3. 悪かった	0	0	0

【理由】

・怖がっていたのに対応がやさしかったにで安心しました。
・常に身体の心配をしてくれたから
・楽しく会話して頂きました。

他

問7 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	393	269	124
2. いいえ	4	3	1
3. 機会があれば	163	124	39
4. わからない	10	7	3
5. その他	0	0	0

570

問8 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・針が怖かったです
・キレイなルームで気持ち良く献血ができてよかったです
・初めてでしたが献血して良かったです
・初めてだったが、リラックスできイメージが良くなった
・献血について詳しく説明が転載したパンフレットがあるとよかったです

他

献血に係るアンケート(初回者)【40代】

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	33	13	189	22	17	8	11	78	76	30	14	32	16	2	23
女性	3	5	61	5	6	65	9	69	28	2	4	17	5	3	8
合計	36	18	250	27	23	73	20	147	104	32	18	49	21	5	31

427

427

問1 今回献血をしようと思った動機を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 献血可能年齢になったから	23	14	9
2. 誘われたから	子ども	7	4
	両親	3	2
	友人	48	30
	職員	52	40
	その他	31	22
3. 施設や献血バスの看板・案内図を見たから	114	67	47
4. 献血セミナーを受けたから	5	4	1
5. 献血バスが学校に来たから	32	27	5
6. 献血バスが職場に来たから	72	51	21
7. 報道(テレビ番組やテレビCM等)をみて	23	15	8
8. 献血のイベントに参加して	8	7	1
9. その他	85	44	41

その他(コメント)

・家族が輸血のお世話になったので
・友人が何度も献血をしていると聞いて
・子供にみせるため 他

問2 「献血」をどこで知りましたか。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 日本赤十字社のホームページ	30	20	10
2. 献血会場内の告知	123	81	42
3. 武道館コンサート	2	2	0
4. 血液センターのイベント	12	8	4
5. 献血推進のキャンペーン	58	29	29
6. 報道	新聞	13	9
	テレビ	52	37
	ラジオ	25	18
	ネット	6	3
	雑誌等	4	2
	その他	6	4
7. 日本赤十字社が発行している広報誌	12	11	1
8. 献血セミナー	学校	37	25
	職場	39	31
	各種会合等	1	0
	その他	2	1
9. その他	90	50	40

その他(コメント)

・通りかかって見つけました
・職場
・ライオンズクラブ、学校 他

問3 今までの「献血」のイメージを教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	247	171	76
2. 社会に役立つ	254	158	96
3. 痛い	62	44	18
4. 怖い	36	23	13
5. 何に使われているかわからない	9	8	1
6. その他	6	3	3

その他(コメント)

・趣味の1つ
・一人で行きにくい 他

問4 献血をして良かったですか。

	合計	男性	女性
1. よかった	398	261	137
2. どちらともいえない	28	20	8
3. よくなかった。	1	1	0

【理由】

・社会貢献が出来たと思う
・思ったより気軽にできた。
・献血は怖いイメージがあったが、そのイメージを変えることができた。 他

問5 痛みはどうでしたか。

	合計	男性	女性
1. 痛かった	37	26	11
2. 思っていたより痛くなかった	261	170	91
3. 全く痛くなかった	129	86	43

問6 スタッフ(医師、看護師、受付職員等)の対応について教えてください。

	合計	男性	女性
1. よかった	402	261	141
2. 普通	25	21	4
3. 悪かった	0	0	0

【理由】

・落ち着いて献血ができた
・不明点を丁寧に教えてもらった
・笑顔 他

問7 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	337	212	125
2. いいえ	2	2	0
3. 機会があれば	82	63	19
4. わからない	5	4	1
5. その他	1	1	0

問8 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・献血バスを見るとつい通り過ぎるせが付いている、
・皆様丁寧で親切で大変良かった
・初めての人ももう少し詳しい案内があると良い、前検査の時に前に席を詰めて移動させるなど
・足の運動を加えたら、終了後の気分がぜんぜん違ってよかった。

他

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・専門学校生	会社員	自営業	公務員	その他	血液センター	献血ルーム	職場	高校	大学・専門学校	ショッピングセンター等	公民館等の公共施設	地域イベント	それ以外の会場
男性	12	2	59	6	8	5	8	23	29	12	1	7	5	1	6
女性	1	3	25	6	3	44	2	29	20	0	3	12	9	1	6
合計	13	5	84	12	11	49	10	52	49	12	4	19	14	2	12
						174									174

174

174

問1 今回献血をしようと思った動機を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 献血可能年齢になったから	4	3	1
2. 誘われたから	子ども	4	1
	両親	1	0
	友人	17	8
	職員	16	9
	その他	15	8
3. 施設や献血バスの看板・案内図を見たから	51	24	27
4. 献血セミナーを受けたから	2	2	0
5. 献血バスが学校に来たから	14	11	3
6. 献血バスが職場に来たから	43	19	24
7. 報道(テレビ番組やテレビCM等)をみて	8	5	3
8. 献血のイベントに参加して	5	3	2
9. その他	35	16	19

・以前から献血は機会があればと思っていたところ、今日時間に余裕が出来たので立ち寄ることになった。
・人の役に立ちたかった。
・たまたま時間にゆとりがあるときに献血ルームの存在に気付いたから。他

問2 「献血」をどこで知りましたか。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 日本赤十字社のホームページ	20	13	7
2. 献血会場内の告知	59	31	28
3. 武道館コンサート	0	0	0
4. 血液センターのイベント	11	5	6
5. 献血推進のキャンペーン	31	15	16
6. 報道	新聞	10	7
	テレビ	17	11
	ラジオ	5	3
	ネット	2	1
	雑誌等	4	4
	その他	6	1
7. 日本赤十字社が発行している広報誌	4	1	3
8. 献血セミナー	学校	11	7
	職場	17	12
	各種会合等	1	0
	その他	2	1
9. その他	33	12	21

・区役所名アナウンスを聞いて
・友人が献血しているのを聞いたから。
・当日朝、友人からの声かけ。他

問3 今までの「献血」のイメージを教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	95	50	45
2. 社会に役立つ	117	57	60
3. 痛い	12	4	8
4. 怖い	8	4	4
5. 何に使われているか分からない	4	3	1
6. その他	2	1	1

その他(コメント)

問4 献血をして良かったですか。

	合計	男性	女性
1. よかった	167	88	79
2. どちらともいえない	7	4	3
3. よくなかった。	0	0	0

【理由】
・少しは誰かの役に立てたかなと思う
・人のためになるだろうから
・社会の為

他

問5 痛みはどうでしたか。

	合計	男性	女性
1. 痛かった	9	5	4
2. 思っていたより痛くなかった	93	47	46
3. 全く痛くなかった	72	40	32

174

問6 スタッフ(医師、看護師、受付職員等)の対応について教えてください。

	合計	男性	女性
1. よかった	167	89	78
2. 普通	7	3	4
3. 悪かった	0	0	0

【理由】
・献血初めてだったので少しドキドキしましたが、親切に声をかけて頂きました
・親切で、色々な質問にこころよく答えて頂いて良くわかった。理解できた。
・献血の看護師さんが少々冷たく感じたが、上手で痛くなかったので全体的に判断してOKでした 他

問7 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	145	77	68
2. いいえ	0	0	0
3. 機会があれば	29	15	14
4. わからない	0	0	0
5. その他	0	0	0

174

問8 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・16才以上になったら原則献血を義務にしても良いと思います。なるべく若い高校生等からの献血の方がリスクが少ないので推進した方が良いと思います。
定期的な学校を回っても良いと思います。
・街頭での献血バスの時間を広く広報する事が必要では。(場所を含め)献血ルーム近くの公共施設でのPRが少ない気がします。
(今回この場所にあることを自宅インターネットで調べて初めて気が付いた状況です)
・リラックスしたムードのうちに献血の受付から採血までおえることができました。駐車券もいただけて助かりました。
・初めてこのようなところで献血しましたがイメージが変わりました(とても明るいイメージ)ありがとうございました
・50代になるまで未経験だったが、思ったより簡単であった
他

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外の 会場
男性	5	1	9	2	1	5	1	3	6	5	1	4	2	0	1
女性	3	1	4	1	1	9	2	6	1	2	1	5	2	0	0
合計	8	2	13	3	2	14	3	9	7	7	2	9	4	0	1

42

42

問1 今回献血をしようと思った動機を教えてください。(複数回答可)

		合計	男性	女性
1. 献血可能年齢になったから		6	4	2
2. 誘われたから	子ども	0	0	0
	両親	0	0	0
	友人	5	1	4
	職員	5	3	2
	その他	1	0	1
3. 施設や献血バスの看板・案内図を見たから		15	6	9
4. 献血セミナーを受けたから		1	0	1
5. 献血バスが学校に来たから		3	3	0
6. 献血バスが職場に来たから		5	5	0
7. 報道(テレビ番組やテレビCM等)をみて		4	1	3
8. 献血のイベントに参加して		1	0	1
9. その他		7	5	2

その他(コメント)

問2 「献血」をどこで知りましたか。(複数回答可)

		合計	男性	女性
1. 日本赤十字社のホームページ		1	0	1
2. 献血会場内の告知		10	6	4
3. 武道館コンサート		0	0	0
4. 血液センターのイベント		2	1	1
5. 献血推進のキャンペーン		8	3	5
6. 報道	新聞	1	1	0
	テレビ	4	3	1
	ラジオ	0	0	0
	ネット	1	1	0
	雑誌等	1	0	1
	その他	0	0	0
7. 日本赤十字社が発行している広報誌		5	1	4
8. 献血セミナー	学校	4	4	0
	職場	4	4	0
	各種会合等	0	0	0
	その他	0	0	0
9. その他		12	4	8

その他(コメント)

・夫が赤十字からのメールを受取ったので
・家族がやってるので
・市の広報

他

問3 今までの「献血」のイメージを教えてください。(複数回答可)

		合計	男性	女性
1. 患者さんのため		21	10	11
2. 社会に役立つ		24	12	12
3. 痛い		2	2	0
4. 怖い		1	1	0
5. 何に使われているか分からない		1	1	0
6. その他		0	0	0

その他(コメント)

問4 献血をして良かったですか。

		合計	男性	女性
1. よかった		39	21	18
2. どちらともいえない		3	2	1
3. よくなかった。		0	0	0

【理由】

・少しは誰かの役に立てたかなと思う
・人のためになるだろうから
・社会の為

他

問5 痛みはどうでしたか。

		合計	男性	女性
1. 痛かった		5	3	2
2. 思っていたより痛くなかった		22	14	8
3. 全く痛くなかった		15	6	9

42

問6 スタッフ(医師、看護師、受付職員等)の対応について教えてください。

		合計	男性	女性
1. よかった		38	20	18
2. 普通		4	3	1
3. 悪かった		0	0	0

【理由】

・不安がなかった
・細かい配慮が良かった
・親切に対応してくださった

他

問7 これからも献血にご協力いただけますか。

		合計	男性	女性
1. はい		35	18	17
2. いいえ		1	0	1
3. 機会があれば		5	4	1
4. わからない		1	1	0
5. その他		0	0	0

42

問8 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・社会に役に立ちたい

・もっとネットなどを使ってもいいのではないのでしょうか

他

献血に係るアンケート(再来者)

【1】 年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計			
人数	285	1,864	2,310	3,105	2,235	659	10,458			
構成率	2.7%	17.8%	22.1%	29.7%	21.4%	6.3%	100.0%			
【2】 性別	男性	女性	合計							
人数	6,944	3,514	10,458							
構成率	66.4%	33.6%	100.0%							
【3】 職業	高校生	大学・専門学校生	会社員	自営業	公務員	その他	合計			
人数	151	518	6,236	536	1,520	1,497	10,458			
構成率	1.4%	5.0%	59.6%	5.1%	14.5%	14.3%	100.0%			
【4】 献血場所	血液センター	献血ルーム	職場	高校	大学・専門学校	ショッピングセンター等	公民館等の公共施設	地域のイベント	それ以外の会場	合計
人数	731	3,273	3,488	198	364	1,168	493	146	597	10,458
構成率	7.0%	31.3%	33.4%	1.9%	3.5%	11.2%	4.7%	1.4%	5.7%	100.0%

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	86	58	22	1	7	3	2	38	16	76	35	4	0	0	6
女性	48	45	7	0	4	4	2	31	4	46	19	2	3	0	1
合計	134	103	29	1	11	7	4	69	20	122	54	6	3	0	7

285

問1 前回の献血からの間隔は何年ですか。

285

	合計	男性	女性
1年	214	132	82
2年	54	33	21
3年	7	5	2
4年以上	10	7	3

285

問2 前回から献血協力の期間が空いた理由を教えてください。

	合計	男性	女性
1. 機会がなかった	201	132	69
2. 服薬をしていた	3	2	1
3. 治療をしていた	1	0	1
4. 場所が分からなかった	2	2	0
5. 忙しかった	56	32	24
6. 前回献血で具合が悪くなった	4	3	1
7. 痛い思いをするのがいやだった	1	1	0
8. その他	17	5	12

その他(コメント)

- ・口の中をけがしていてできなかった
- ・血液がうすくとれなかった
- ・体重が足りなかった
- 他

285

問3 今回献血に来られた理由を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	138	74	64
2. 社会に役立つ	164	108	56
3. 自分や家族のため	38	25	13
4. 誘われたから	子ども	1	0
	両親	4	1
	友人	21	5
	職員	12	2
	その他	2	1
5. 献血バスが学校に来たから	126	66	60
6. 献血バスが職場に来たから	20	16	4
7. ホームページ等を見たから	4	0	4
8. 献血セミナーを受けたから	3	3	0
9. 日本赤十字社が発行する広報誌を見たから	1	1	0
10. 報道等を見たから	4	4	0
11. キャンペーンを知ったから	4	3	1
12. イベントに参加して	0	0	0
13. その他	25	10	15

その他(コメント)

- ・時間があったため
- ・駅前で献血をお願いしていたから
- ・好きだから
- 他

問4 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	243	145	98
2. いいえ	0	0	0
3. 機会があれば	38	28	10
4. わからない	4	4	0
5. その他	0	0	0

285

問5 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

- ・スタッフの方が皆さんいい方で親しみやすくてまた来たいと思いました
- ・これからも学校での献血機会を設けて頂ければ嬉しいです。
- ・安全のためで仕方のないことだと思うが、時間がかかるのであまり気軽に献血に行くことができません。
- ・人の役に立ててよかった。
- ・痛かったです。
- ・待ち時間をもう少し短めにしてほしい。

他

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	3	244	649	15	245	45	83	287	479	9	172	80	25	11	55
女性	1	161	347	5	54	95	62	330	96	11	76	55	10	2	21
合計	4	405	996	20	299	140	145	617	575	20	248	135	35	13	76

1,864

問1 前回の献血からの間隔は何年ですか。

	合計	男性	女性
1年	800	529	271
2年	420	257	163
3年	238	150	88
4年以上	406	265	141

1,864

問2 前回から献血協力の期間が空いた理由を教えてください。

	合計	男性	女性
1. 機会がなかった	1,181	804	377
2. 服薬をしていた	44	25	19
3. 治療をしていた	17	11	6
4. 場所が分からなかった	12	9	3
5. 忙しかった	433	288	145
6. 前回献血で具合が悪くなった	14	9	5
7. 痛い思いをするのがいやだった	19	12	7
8. その他	144	43	101

その他(コメント)

- ・機会があったがなんとなく
- ・血圧・比重が基準未満で出来なかった。
- ・献血をしに行った時、貧血と言われて献血できなかった。他

問3 今回献血に来られた理由を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	536	313	223
2. 社会に役立つから	738	469	269
3. 自分や家族のため	193	122	71
4. 誘われたから	子ども	1	0
	両親	26	15
	友人	96	40
	職員	144	21
	その他	55	21
5. 献血バスが学校に来たから	225	143	82
6. 献血バスが職場に来たから	440	338	102
7. ホームページ等を見たから	28	11	17
8. 献血セミナーを受けたから	4	1	3
9. 日本赤十字社が発行する広報誌を見たから	10	5	5
10. 報道等を見たから	17	10	7
11. キャンペーンを知ったから	35	15	20
12. イベントに参加して	8	4	4
13. その他	338	172	166

その他(コメント)

- ・献血バスがあったから
- ・メールが来たから
- ・時間があって、最近していなかったから。他

問4 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	1,544	957	587
2. いいえ	0	0	0
3. 機会があれば	311	237	74
4. わからない	9	7	2
5. その他	0	0	0

1,864

問5 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

- ・職場に来て頂けるとありがたいです。粗品のグレードアップに期待してます。
- ・針を小さくしてほしい。もっとお礼があってもいいと思う
- ・献血時間(受付から)の短縮ならもっと受けやすい。昼休みに来てしまった時が何度かあり残念
- ・可能であれば硬針ではなくルート用の針を使ってもらえるとありがたいです。
- ・とても丁寧に説明、対応していただき、快適に過ごすことができました。また、機会を見つけて献血しようと思います。
- ・採血時間を教えてほしい
- ・夜やっていれば来れる
- ・義務化にすれば良いとおもいます
- ・学生時代はよく献血をしましたが、社会人になり、なかなか献血をする機会が減ってきました。仕事上、休みの日しかできませんが、できる限り協力をしていきたいです。
- ・もう少し献血できる場所を増やしてほしい。
- ・献血する機会がなかなか無いのですが丁寧に対応して下さい、気持ちよく帰られそうです。また来ます。

他

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	2	7	1,130	67	322	40	104	424	694	11	17	123	58	24	113
女性	1	12	458	19	67	185	61	323	179	5	7	92	25	16	34
合計	3	19	1,588	86	389	225	165	747	873	16	24	215	83	40	147

2,310

2,310

問1 前回の献血からの間隔は何年ですか。

	合計	男性	女性
1年	723	508	215
2年	391	263	128
3年	201	144	57
4年以上	995	653	342

2,310

問2 前回から献血協力の期間が空いた理由を教えてください。

	合計	男性	女性
1. 機会がなかった	1,384	993	391
2. 服薬をしていた	73	44	29
3. 治療をしていた	28	22	6
4. 場所が分からなかった	19	13	6
5. 忙しかった	490	362	128
6. 前回献血で具合が悪くなった	26	21	5
7. 痛い思いをするのがいやだった	14	8	6
8. その他	276	105	171

その他(コメント) ・近所に場所がなかった
・出産・育児で
・忙しかった
他

2,310

問3 今回献血に来られた理由を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	700	450	250
2. 社会に役立つ	1,110	767	343
3. 自分や家族のため	346	237	109
4. 誘われたから	子ども	3	2
	両親	12	2
	友人	43	23
	職員	162	134
	その他	68	49
5. 献血バスが学校に来たから	38	24	14
6. 献血バスが職場に来たから	699	533	166
7. ホームページ等を見たから	31	17	14
8. 献血セミナーを受けたから	4	2	2
9. 日本赤十字社が発行する広報誌を見たから	17	14	3
10. 報道等を見たから	15	10	5
11. キャンペーンを知ったから	55	32	23
12. イベントに参加して	22	17	5
13. その他	454	234	220

その他(コメント) ・ハガキが来たので。
・たまたま時間が出来たので
・夫の献血に付添い、久しぶりに出来るかなと思ったから。 他

問4 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	1,984	1,335	649
2. いいえ	0	0	0
3. 機会があれば	312	220	92
4. わからない	13	12	1
5. その他	1	1	0

2,310

問5 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・受付の方、看護師の方、皆さんの対応が良かった。また、機会があれば献血に来ようと思います。
・日中に献血バスが職場等に来ることがありますが、仕事のためなかなか献血に協力しにくいです。週に1回程度でもいいので夕方から夜に献血できるようになるといいなと思います。
・待ち時間がみじかくなると良い
・献血バスが職場に来てくれるのがありがたいです。
・受付からタッチパネルまで時間が長かったので、早くなるといいと思う。
・400mL献血を採取するとき、事前にどのくらいかかるか分かれると安心できます。
・10年ぶりに来てカルチャーショックを受けました。
・また小学校の行事で献血の機会を設けていただきたいと思います。
・会社のバスの時より献血ルームの方が時間がかかるので、もう少しスムーズに終わると来やすいと思った。

他

献血に係るアンケート(再来者)【40代】

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液センター	献血ルーム	職場	高校	大学・専門学校	ショッピングセンター等	公民館等の公共施設	地域イベント	それ以外の会場
男性	1	3	1,525	129	375	41	127	567	909	14	19	213	88	23	114
女性	1	6	488	43	97	396	94	400	231	5	4	173	52	12	60
合計	2	9	2,013	172	472	437	221	967	1,140	19	23	386	140	35	174

3,105

3,105

問1 前回の献血からの間隔は何年ですか。

	合計	男性	女性
1年	1,044	723	321
2年	521	352	169
3年	278	195	83
4年以上	1,262	804	458

3,105

問2 前回から献血協力の期間が空いた理由を教えてください。

	合計	男性	女性
1. 機会がなかった	1,925	1,343	582
2. 服薬をしていた	134	95	39
3. 治療をしていた	42	24	18
4. 場所が分からなかった	15	11	4
5. 忙しかった	620	433	187
6. 前回献血で具合が悪くなった	20	12	8
7. 痛い思いをするのがいやだった	25	17	8
8. その他	324	139	185

3,105

・肝機能の数値が悪くなったので戻るのを待った。
・イギリス渡航歴で出来なかった
・9時から17時までに来れませんでした 他

問3 今回献血に来られた理由を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	862	545	317
2. 社会に役立つ	1,657	1,108	549
3. 自分や家族のため	454	284	170
4. 誘われたから	子ども	27	11
	両親	9	5
	友人	50	27
	職員	133	94
	その他	91	57
5. 献血バスが学校に来たから	53	29	24
6. 献血バスが職場に来たから	897	678	219
7. ホームページ等を見たから	40	24	16
8. 献血セミナーを受けたから	1	1	0
9. 日本赤十字社が発行する広報誌を見たから	35	20	15
10. 報道等を見たから	35	14	21
11. キャンペーンを知ったから	94	51	43
12. イベントに参加して	21	17	4
13. その他	582	307	275

その他(コメント)

・今日が娘の誕生日
・家族が手術で助けていただいたので
・子供に献血するようすすめたかったのだ 他

問4 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	2,730	1,816	914
2. いいえ	3	3	0
3. 機会があれば	355	243	112
4. わからない	16	12	4
5. その他	1	0	1

3,105

問5 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・キッズスペースが最高です!!
・受付に時間がかかり過ぎる。
・少々せまく感じた為、新しい車輛が導入されるといいと思います。
・採血基準値を緩和してほしい
・子供たちに献血について教育するべき
・赤十字病院でも献血ができるといいと思います。マリエまで行くより駐車場があるので。
・献血ルームがとてもきれいで、清潔にできていいと思いました。友達にも声を掛けて、献血に来てもらえるようにしていきたいです。
・スタッフの方もとても親切にしてくださり、いつも安心して献血ができます
・痛くない針があればうれしい

他

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学校生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	7	0	1,019	123	269	56	94	392	578	15	7	171	99	28	90
女性	0	0	307	32	44	378	51	306	149	2	4	126	59	18	46
合計	7	0	1,326	155	313	434	145	698	727	17	11	297	158	46	136

問1 前回の献血からの間隔は何年ですか。

	合計	男性	女性
1年	763	514	249
2年	362	258	104
3年	201	126	75
4年以上	909	576	333

問2 前回から献血協力の期間が空いた理由を教えてください。

	合計	男性	女性
1. 機会がなかった	1,372	937	435
2. 服薬をしていた	135	93	42
3. 治療をしていた	38	23	15
4. 場所が分からなかった	17	11	6
5. 忙しかった	372	261	111
6. 前回献血で具合が悪くなった	11	4	7
7. 痛い思いをするのがいやだった	15	10	5
8. その他	275	135	140

・海外旅行が多く出来なかったため。
・体重が足りなかった
・問診がめんどう
他

問3 今回献血に来られた理由を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	579	365	214
2. 社会に役立つ	1,267	839	428
3. 自分や家族のため	367	236	131
4. 誘われたから	子ども	23	8
	両親	4	1
	友人	40	22
	職員	81	59
	その他	61	34
5. 献血バスが学校に来たから	32	25	7
6. 献血バスが職場に来たから	550	423	127
7. ホームページ等を見たから	27	16	11
8. 献血セミナーを受けたから	1	1	0
9. 日本赤十字社が発行する広報誌を見たから	35	26	9
10. 報道等を見たから	31	20	11
11. キャンペーンを知ったから	101	62	39
12. イベントに参加して	15	12	3
13. その他	417	218	199

・家族が病気になり医療への関心が強まったから。
・FMラジオ番組を聞いて。
・健康管理のため
他

問4 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	1,970	1,295	675
2. いいえ	2	2	0
3. 機会があれば	246	165	81
4. わからない	16	12	4
5. その他	1	0	1

問5 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・200ccの献血ができなくて残念がっていた体重のない女子社員がいたので前もって200ccの本数など教えてくれると良いと思う
・待ち時間を短くしてもらいたい。全血でトータル90分以上はかかりすぎ、せめて60分以内でないとなかなか献血できません
・スタッフの人達がとても感じが良く嬉しかった
・針が太い怖い。
・子育てで余裕がなかったが、子育ても一段落したため時々協力したい。
・職場からでも、献血車が近くに来たら、行ける人は行ってください。という風に世の中なれば…と思います。
・献血バスが来る日程が判るようにしてもらえれば有難い
・機会が多ければ良い。
・午前中の受付時間が、もう少し長いと窓事をした後の買物時間に行けるのですが。

他

性別	職業						献血場所								
	高校生	大学・ 専門学生	会社員	自営業	公務員	その他	血液 センター	献血 ルーム	職場	高校	大学・ 専門学校	ショッピング センター等	公民館等の 公共施設	地域 イベント	それ以外 の会場
男性	0	0	246	67	29	108	35	113	133	5	3	76	43	7	35
女性	1	0	38	17	7	146	16	62	20	0	0	53	31	5	22
合計	1	0	284	84	36	254	51	175	153	5	3	129	74	12	57

659

659

問1 前回の献血からの間隔は何年ですか。

	合計	男性	女性
1年	240	174	66
2年	122	74	48
3年	58	38	20
4年以上	239	164	75

659

問2 前回から献血協力の期間が空いた理由を教えてください。

	合計	男性	女性
1. 機会がなかった	382	258	124
2. 服薬をしていた	47	33	14
3. 治療をしていた	13	11	2
4. 場所が分からなかった	4	2	2
5. 忙しかった	122	92	30
6. 前回献血で具合が悪くなった	5	1	4
7. 痛い思いをするのがいやだった	3	1	2
9. その他	83	52	31

・案内がない
・職場での献血がなかったから。
・降圧剤を飲んでいたので献血できないと思っていた。 他

659

問3 今回献血に来られた理由を教えてください。(複数回答可)

	合計	男性	女性
1. 患者さんのため	157	103	54
2. 社会に役立つ	384	274	110
3. 自分や家族のため	132	88	44
4. 誘われたから	子ども	3	1
	両親	0	0
	友人	11	4
	職員	17	11
	その他	20	11
5. 献血バスが学校に来たから	12	8	4
6. 献血バスが職場に来たから	106	89	17
7. ホームページ等を見たから	4	2	2
8. 献血セミナーを受けたから	2	1	1
9. 日本赤十字社が発行する広報誌を見たから	17	9	8
10. 報道等を見たから	18	13	5
11. キャンペーンを知ったから	45	26	19
12. イベントに参加して	11	6	5
13. その他	152	95	57

・家族に言われた
・依頼の電話があったため。
・たまたま献血をやっていたから 他

問4 これからも献血にご協力いただけますか。

	合計	男性	女性
1. はい	564	395	169
2. いいえ	1	1	0
3. 機会があれば	85	47	38
4. わからない	7	5	2
5. その他	2	2	0

659

問5 何かご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

・前回行ったときより質問等が多い。
・ショッピングセンター内には人が多いのに献血する人が少ない。館内放送などもっと人を呼び込む方法を考える必要があるのではないのでしょうか。
・快適な環境で献血できて良かったです
・今後も機会があれば、献血します
・痛みが少ないように・・・
・献血が出来る間は続けていきたいと思っています。

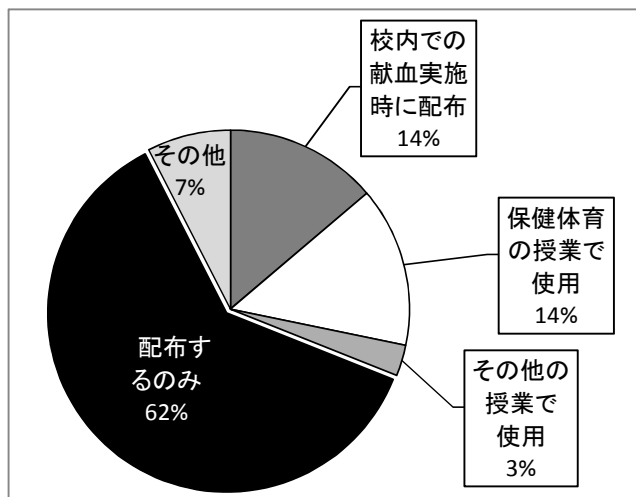
他

平成27年度「けんけつ HOP STEP JUMP」アンケート調査結果

【調査の基礎情報】

- ・調査の方法：全国の高等学校へ資料を配布する際にアンケート用紙を同封し、資料活用後にアンケートへの回答を依頼した。
- ・調査学校数： 6, 260校
- ・回 答 数： 465校
- ・回 答 率： 7. 4%

1. この資料をどのように利用されていますか。(利用する予定ですか。)



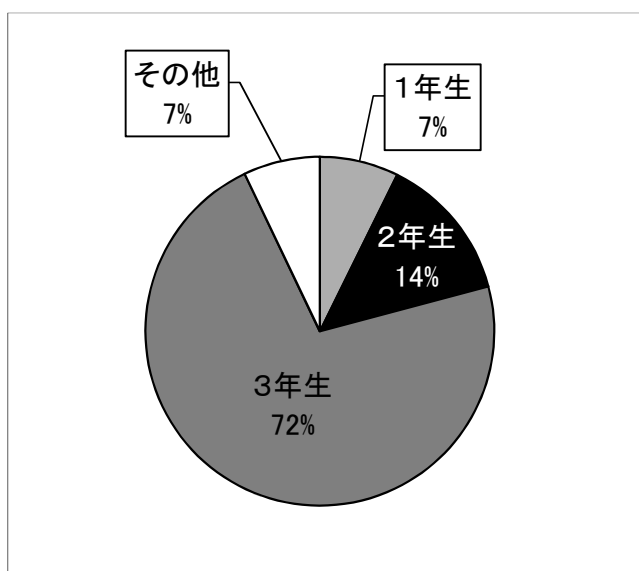
【その他の授業で使用(内訳)】

HR/LHR

【その他(内訳)】

HRで配布・担任から指導/献血講話/
献血の呼び掛け・事前学習時に使用/
学年集会で配布・説明/保健指導/
献血のお願いと一緒に配布/
朝読書の時間に配布し、読んでもらいながら説明/
講演(献血セミナー等)時に配布/
献血セミナーの振り返り教材としての活用/
献血前に配布/配布していない

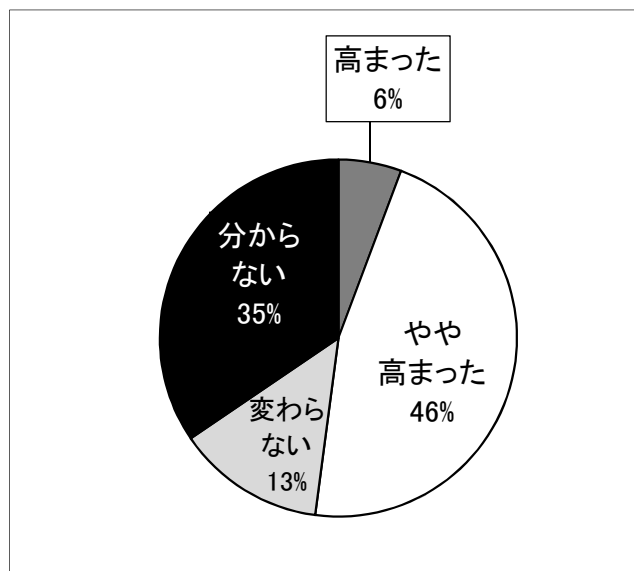
2. 本資料を何年生に配布しましたか。(配布する予定ですか。)



【その他(内訳)】

全学年/1、2年生/2、3年生/1、3年生/3、4年生/4年生
必要に応じて

3. 本資料によって、生徒の献血への関心に変化はありましたか。(あると考えますか。)



4. 本資料の内容について生徒の献血への関心を高めるためのアイデアや改善すべき点(主な意見)

(1) デザインについて

- ・パンフレットの大きさをもう少しコンパクトに。すぐ読めるようイラスト・写真を中心にした方が良い。
- ・冊子も良いが、チラシがあるともう少し手軽に朝のHRで取り上げられるのではないかなと思う。
- ・今の高校生は紙媒体の資料はなかなか読まない。カード形式のものを配布して、それにQRコード等をつけておけば、自分でアクセスして見てくれるかもしれない。
- ・本校は特別支援学校のため、もう少し字を少なくし、絵や図を多くしてくれると分かりやすいと思う。

(2) 内容について

- ・内容はもっと削って良いかなと思う。高校生に特に伝えたいメッセージに重点をおいても良いかと。ページ数が少なく、メッセージ性の多い内容であれば更に関心が高まるのではないかな。
- ・生徒と同年代くらいの子が輸血により回復した、というエピソードなどがあると、生徒も献血することで誰の役に立つのかイメージしやすいと思う。
- ・貧血で献血できない生徒の割合が高いので、献血をするための体作り(貧血対策)等を載せてはどうだろうか。また、高校生に人気のアーティストなどが載っていると、注目するようだ。
- ・「高校生も献血できる」ということを全面に出す。(意外にできない、怖いと思っている。)
- ・LOVE in Action(LIVE)のことも盛り込んで頂けると興味がわくと思う。
- ・病弱特別支援学校のため、生徒の疾患によっては献血の関心の持たせ方に配慮が必要である。
- ・初めて献血する人がほとんどなので、生徒が知っている芸能人や有名人の献血してみても感想も献血を身近に感じられるのでは？
- ・このようなテキストを細かく読ませるより、一目瞭然とアピールした方が良い。献血の安心、安全性の強調、もっと見やすく分かりやすいように図説すると良い。

(3) 他の啓発方法について

- ・SNS等の利用による呼びかけや、LINEのスタンプ作りを行う。
- ・予算があるのであれば、うちわやポケットティッシュ等ではなく、クリアファイルやペン等、生徒たちが普段使用するものを配布した方が良いと思う。
- ・冊子に加えてDVDがあると視覚的にも印象強く、興味はより強まると思う。
- ・冊子にラインスタンプが貰えるアプリが付いている、アクセスするとゲームができる等。
- ・献血ルームのスタッフの方による簡単なキャンペーンなどが生徒・職員向けにあれば周知がされると思う。または養護教諭の研究会での講義など。
- ・クリアファイルを配布した方が、見る時間が長いと思う。

(4) その他

- ・配るだけでは何も変わらない。授業での活用例など分かりやすく示していただきたい。
- ・献血そのものへの関心の薄さがある。教員の献血についての話し方で意識が変わる。教員向けの働きかけが必要に思う。
- ・本校は学園祭にも献血車に来て頂き協力しているが、なかなか数が増えないのが現状。配布を3、4年生に絞ったのは選挙権とセットで大人へのステップとして指導していけたらと思っている。とりあえずは配布だけであるが、色々な場面で指導を入れる。
- ・平成27年度から学校行事の一環で献血を行っている。資料の提供や説明だけでなく、教育活動の中に献血推進につながる仕組みを作ることが関心を高めることになると思う。

高校生の献血意識に関する調査

竹下 明裕¹⁾ 古牧 宏啓¹⁾ 浅井 隆善²⁾ 梶原 道子³⁾ 岩尾 憲明⁴⁾
室井 一男⁵⁾

近年、若年者の献血人口の減少が問題になっている。将来の献血を担う、高校生の献血に対する意識調査を行うことは献血の将来を考えていく上で重要である。アンケート方式による 50 項目の意識調査を行い、献血に関する高校生への広報や教育の現状と高校生の意識を調査した。調査は連結不可能の疫学調査として行い、35 校中 30 校から協力が得られ、調査対象 16,333 人のうち 15,521 人 (95.0%) より回答を得た。男性 49.3%，女性は 49.8% であった。

献血を経験した高校生は 1,198 人 (7.7%) で、未経験者は 88.6% であった。疲労感や睡眠不足、ダイエット等は採血の際に注意すべき生活習慣である。献血可能年齢と体重、献血場所、献血に関わるリスク、血液の海外依存度等の献血に関する知識は不十分であった。献血への関心度は献血経験のある高校生で高く、初回献血の重要性が示唆された。高校への出張献血や献血に関する授業は献血を推進していく上で有用である。しかし献血に関する教育手法と普及活動にはさらに工夫が必要であると思われる。

キーワード：高校生，献血，アンケート調査，意識，行動

緒 言

10 代と 20 代の若年層の献血者数は、同年代の人口減少の割合を上回るペースで減少している¹⁾。献血の担い手となる若年層の献血離れは、将来の輸血医療の不安材料である。日本がますます高齢者社会を迎えると予想されることから、若年層に対する献血の普及や啓発を積極的に行う必要性が示唆されている²⁾。

平成 23 年に実施された厚生労働省による 10 代と 20 代を対象とした若年層献血意識調査結果の概要では、献血未経験者 5,000 人 (高校生は 12.8%) のうち、若年層の献血協力者の大幅な減少を認知している人は 32.5% であった³⁾。また、血液製剤の海外依存を認知している人は 10.8% で、献血では感染症に感染しないことを認知している人は 48.6% であった。輸血用血液製剤の期限は短く絶えず献血が必要であることを理解している人は若年層全体では 46.5% であったが、高校生では 38.3% と低率であった。一方、献血を提供する場所として、高校における集団献血がその後の献血の動機付けに有効であり、特に学校献血の重要性が示唆された。

2014 年の高校生の献血者は 126,326 人で、全献血者に

対する構成比は 2.5% である。また、16～19 歳の献血者数が 281,377 人で献血率は 4.6% と低率である⁴⁾。高校生は、一旦献血に導入できれば、将来にわたり継続的に献血する可能性がある。高校生の献血に対する意識調査を行い、高校生の献血への関心度や理解度を知り⁵⁾、献血に関する広報や教育のありかたを論ずることは重要である。特に、若年者の献血離れの原因を推測し、その対策を立てるようとする試みがされてきた²⁾⁶⁾。

この研究は、厚生労働省科学研究、「200ml 献血由来の赤血球濃厚液の安全性と有効性の評価及び初回献血を含む学校献血の推進等に関する研究」の分担研究として行われた。

方 法

調査研究のアンケート案を作成し、電話による各高校への調査研究への参加の可能性の打診を行った。参加協力の得られた高校へは、研究概要とアンケート調査案を郵便にて送付し、各高校にて検討し、文書にて可否連絡を受けた。参加意思の確認された高校にアンケートを送付し、調査を実施した。

1) 浜松医科大学医学部附属病院輸血細胞治療部

2) 千葉県赤十字血液センター

3) 東京医科歯科大学医学部附属病院輸血部

4) 順天堂大学医学部附属静岡病院血液内科

5) 自治医科大学附属病院輸血細胞移植部

〔受付日：2016 年 6 月 3 日，受理日：2016 年 8 月 1 日〕

調査の対象は、静岡県西部・中部の高校（30校）に通学する高校生（全日制、定時制）16,333人で、以下の調査を施行した。①高校生の献血への関心度や献血へのイメージ、②高校生の献血に関する知識や認知度、③高校生が献血を行った時期やきっかけ、④高校生の献血を広めていく上で必要なメディア、⑤献血に対する不安感とその原因、などである。具体的な調査項目は過去の若年層献血意識調査（厚生労働省）を参考とし、年齢、性別、体格、部活動、進路、ボランティア歴、食生活、本人と周囲の献血の経験、初回献血の機会、献血に関する知識、献血の広報手段、有効なメディア、200mlと400ml献血の身体的、心理的負担、献血への具体的不安、推進のための提案、献血の動機づけ、等の50項目を調査した。

調査方法としては、あらかじめ作成された調査票（アンケート用紙）を使用する。無記名（所属高校名など個人が特定される情報も記載しない）とし、被験者は回答し、それを自身で封筒に入れ封をしたのち、回収した。これにより、匿名化され、調査対象者の個人情報、プライバシーは保護された。また、本調査は、被験者の自由意思に基づき行われ、参加を希望しない調査対象者には行われなかった。回答の所要時間は20分程度であった。統計学的解析にはChi-square test (SAS, Tokyo) を用い、 $p < 0.05$ を有意とした。

本研究は疫学研究の（個人情報連結不可能）に該当し、研究計画書と調査票を浜松医科大学 IRB (25-196) に提出し、その承認を得た。

結 果

A 概要

静岡県内（西部、中部）の35高校にアンケート案を配布し、30校より調査への協力の意向があった。普通高校、工業高校、商業高校、全日制、定時制等の調査の対象を限定しなかった。

16,333人のうち、15,521人(95.0%)より回答を得た。回答を得られなかった集団（5.0%）には当日欠席、不登校も含まれた。学年分布としては、1年生32.7%、2年生40.9%、3年生25.7%であった。3年生に関しては、時期的に、進学や就職準備のため、アンケートの実施時間を取れなかった高校があった。

男性49.3%、女性49.8%（その他は不明）でほぼ同数であった。献血を経験した高校生は7.7%で、未経験者は88.6%であった。献血しようとしたが、血液比重不足等の理由から献血できなかった者が2.9%あった(Fig. 1A)。

B 日常生活について (Fig. 1B1~6)

日常の高校生活で疲労を感じている高校生に関しては、「毎日」が26.4%、「しばしば」が39.2%、「時々」が

23.1%、「まれに」、「全くない」が、8.3%、1.7%であった。睡眠時間に関しては、十分確保11.5%、おおむね確保が50.7%、不足気味31.4%、不足しているが5.7%であった。これらは、献血経験や性別による差異は認めなかった。病院等で貧血の指摘を受けている高校生は17.7%存在し、献血経験のある群では14.4%、ない群では17.9%であった ($p < 0.0001$) (Fig. 2B3)。

献血意識に影響しうる因子として食事やダイエットとの影響を調べた。ダイエットをしたことのない高校生は60.0%、まれに16.3%、時々11.9%、しばしば8.8%、常にしているが2.0%であった。朝食に関しては、毎日食べるが86.7%、週1~2回食べないが8.3%、週3~4回食べないが2.2%、週5回以上食べないが1.9%であった。これらは、献血経験や性別による差異は認めなかった。調査対象の高校生のうち7.7%（15,521人中1,198人）に献血歴があったが、ボランティア活動との関連を検討したところ、ボランティア活動経験群では8.7%（8,848人中761人）、未経験群では7.1%（5,991人中424人）であった ($p < 0.0001$) (Fig. 2B6)。

C 献血に関する知識 (Fig. 1C1~9)

「血液の機能を代替できる人工血液が存在すると思うか」の問いに対し、「存在する」とした者が33.3%、「存在しない」とした者が64.6%で、献血経験や性別による差異は認めなかった。献血場所を「知っている」と回答した高校生は47.9%、「知らない」とした高校生は51.1%であった。献血に関する広報を見たり聞いたりしたことのある高校生は53.7%であった。献血経験のある群では58.8%、ない群では52.9%であった ($p < 0.0001$) (Fig. 2C3)。献血未経験者に、献血の方法を知っているかの質問に、「知っている」、「ある程度知っている」と回答した者は1.7%、17.2%であった。これに対し、「あまり知らない」、「全く知らない」と答えた高校生は、51.1%、29.1%であった。

献血可能な年齢を知っている高校生は32.0%であった。また若年献血者が減少している事を知っていたのは35.4%で、献血経験のある群では44.4%、ない群では34.1%であった ($p < 0.0001$) (Fig. 2C7)。献血することでエイズなどの感染に献血者自身が感染しないことを知っていたのは50.5%で、献血経験のある群では57.9%、ない群では49.3%であった ($p < 0.0001$) (Fig. 2C8)。また血漿分画製剤が海外に依存していることを知っていたのは5.1%で、献血経験のある群では7.0%、ない群では4.8%であった ($p < 0.0001$) (Fig. 2C9)。

D 献血への関心度 (Fig. 1D1~6)

献血についての関心度は、高校生全体では、非常に関心がある、関心があるとした者が4.2%、29.1%で、あまり関心がない、ほとんど関心がないとした者が49.9%、15.9%であった。献血経験のある群ではそれぞ

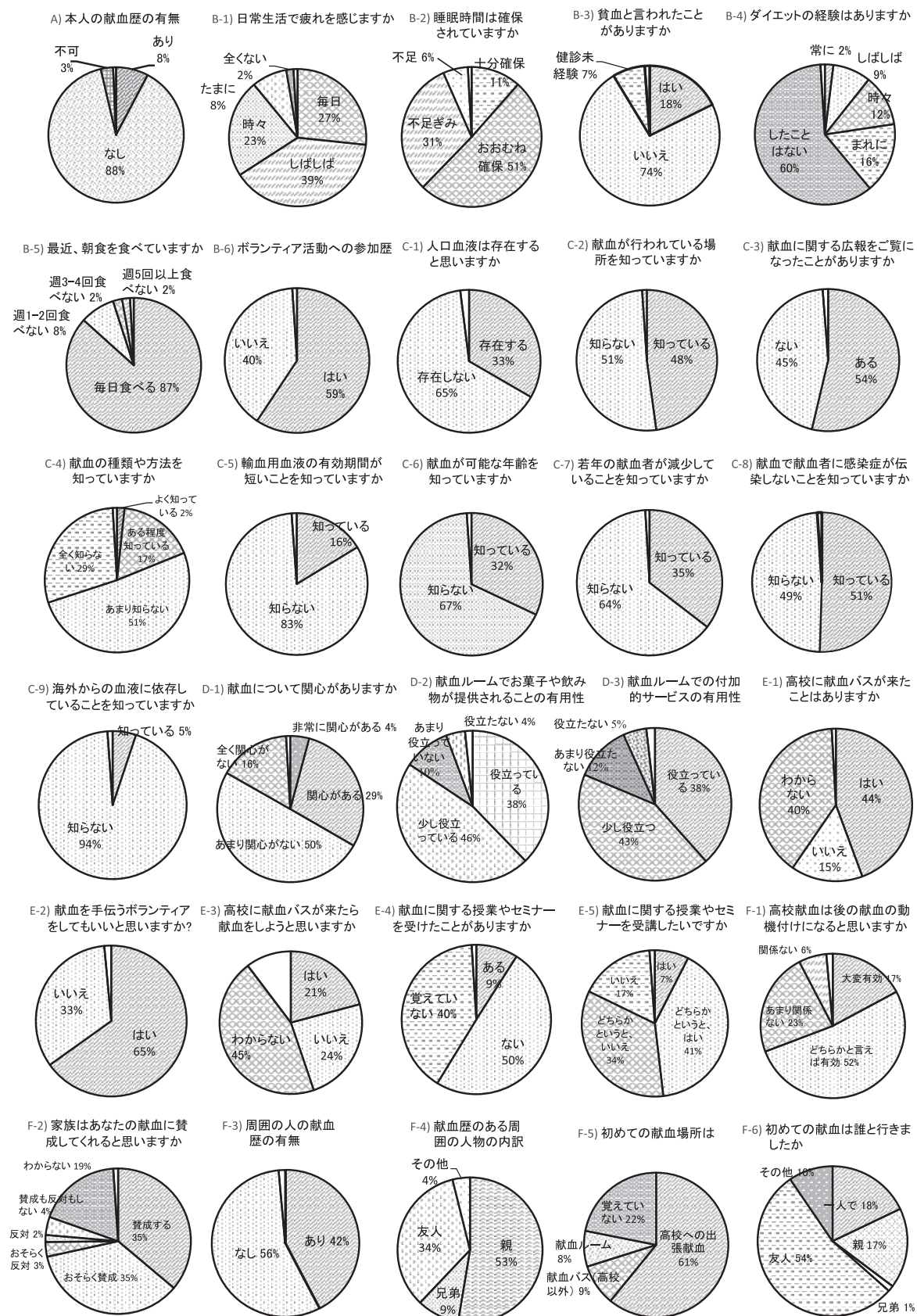


Fig. 1 Thirty questions and their answers are summarized and shown as the pie charts. The questions included gender, age, previous blood donation by the individual as well as family members and friends, lifestyle, diet, views concerning blood demand in society, location of blood donation centers; knowledge of blood donation methods, blood recovery after donation, reasons for declining to give blood, ideas for an effective campaign to recruit blood donors, and previous education on blood donation in their school.

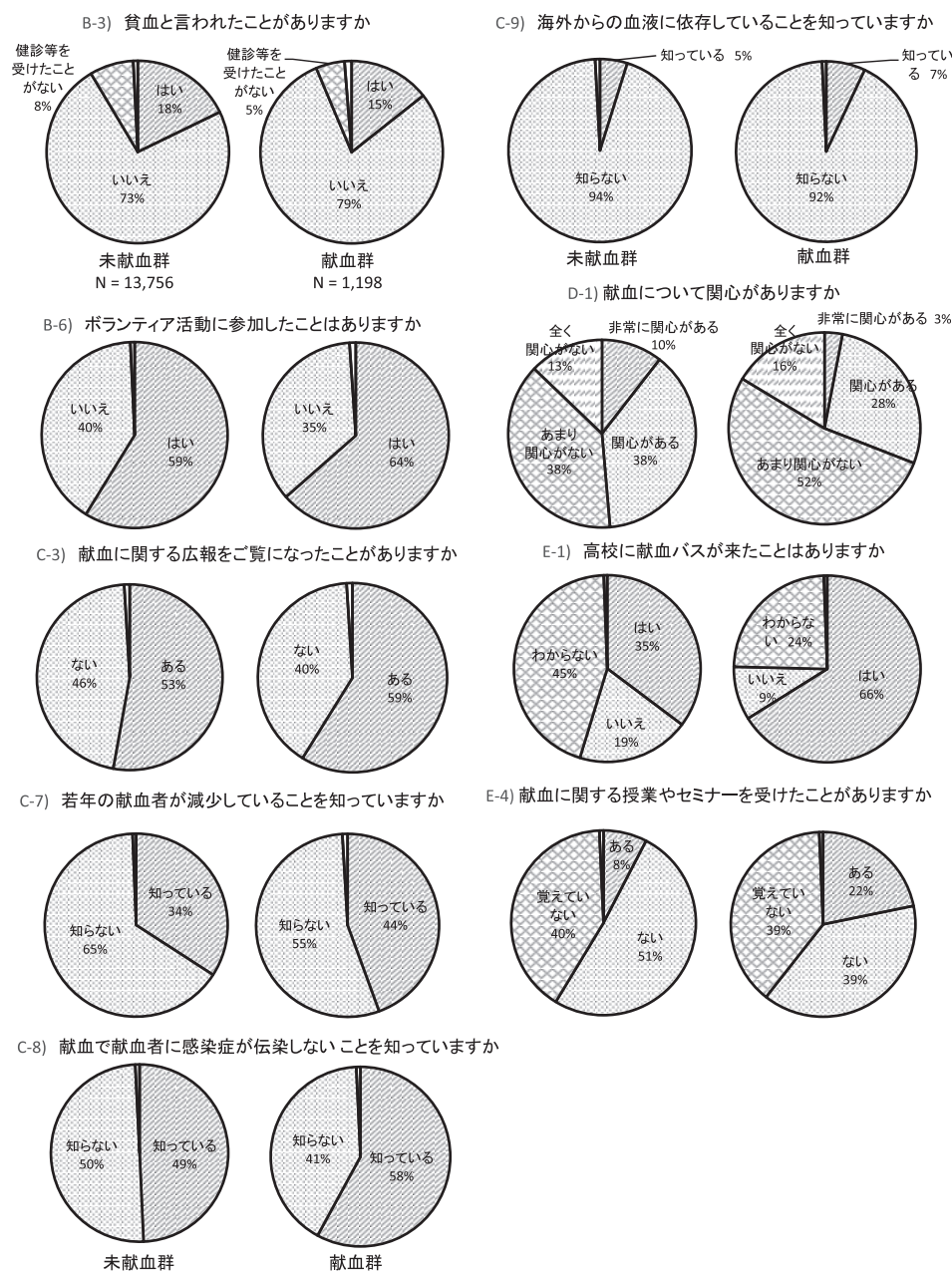


Fig. 2 The answers were compared between students who had previous blood donation and those who did not. Main results were summarized in this figure.

れ 10.4%, 37.7%, 38.1%, 12.7% で、献血経験のない群ではそれぞれ、3.0%, 27.6%, 52.2%, 16.2% であった ($p < 0.0001$)。献血に際してお菓子や飲み物が配られることが献血推進に役立つあるいは少し役立つとした高校生はそれぞれ 37.7%, 46.6% で、あまり役立つしない、役立つないとしたのは 9.9%, 4.1% であった。

マッサージなどのサービスが受けられることは献血に行く上で役立っている、少しは役立っているとした高校生は 38.4%, 43.0% であった。あまり役立っていない、役立っていないとした高校生は、11.9%, 4.9% であった。これらの献血に付帯される配布物やサービス

に関する意見は、献血経験や性別による差異は認めなかった。

E 学校における献血とセミナーの受講 (Fig. 1E1~5)

高校への出張献血が行われている高校は 30 校中、26 校であった。出張献血が行われている高校に所属して、学校献血のための献血バスの来校を知る高校生は 44.4% で、献血経験のある群では 66.1%, ない群では 35.3% であった ($p < 0.0001$) (Fig. 2E1)。学校献血のための献血バスが来る際に、事前の広報や当日の案内等のボランティアをしてもいいと思うかの問いに対して、

思うとした高校生は65.1%で、思わない者は33.4%であった。献血バスの来校を知る高校生では、70.4%がボランティアをしてもいいと思うと解答した。学校で献血に関する授業や血液センターが出張して行われるセミナーを受けた記憶のある高校生は全体で9.0%、記憶のない者は89.9%であった。献血経験のある群では記憶のある高校生は21.8%で、ない群の7.6%を上回った($p<0.0001$) (Fig. 2E4)。一方、47.1%の高校生が献血に関する授業やセミナーの受講を希望していた。

F 初回献血の背景と効果 (Fig. 1F1~6)

高校生献血はその後の献血の動機付けとする上で大変有効、どちらかと言えば有効とした高校生は17.2%と52.1%で、有効と考える高校生が多かった。献血に対する家族の反応は、賛成する、もしくはおそらく賛成するとした高校生が71.6%を占めた。周囲の者の献血歴があるとした高校生は42.3%であり、その内訳は親52.7%、兄弟9.4%、友人34.0%であった。献血した高校生は7.7%で、献血場所は、高校へ出張献血が60.9%と圧倒的に多かった。献血に1人で行った高校生は17.9%、親17.3%、兄弟1.3%、友人53.9%と同伴する者が多かった。

考 察

高校生献血は今後の日本の献血を確保していく上で重要な施策であり、対象となる高校生の意識調査は重要である。過去には、厚生労働省による平成17年度、20年度、23年度に若年者の献血者5,000人、非献血者5,000人を対象としたデータはあるが、対象の多くは18歳から29歳である⁴⁾。今回の研究のような16,000人超の高校生を対象とした大規模な研究は初めてである⁷⁾。

高校生の本調査への協力は約95%と高率に得られた。また、高校側の受け入れも35校中30校と好意的であった。しかし、高校生の献血に関する知識や関心は、十分とは言えず、教育と普及活動はさらに工夫が必要と思われる。

今回は静岡県内の高校を対象とし、高校の種類は特定せず、普通科、工業科や商業科等を含んだ。静岡県では平成26年度65.5%の高校で高校献血が行われており、全国平均の25.7%を上回り、献血数は3,952人である。比較的高校献血が推進されている県であり、全国の高校生のデータを代表するものとは言えないかもしれない。しかし、体格、日常生活、意識と献血行為を検討するには、十分なデータが得られると思われる。

今回の調査対象では、日常生活において、約65%の高校生が毎日あるいはしばしば疲労感を持ち、約37%が睡眠不足を感じていた。疲労感や睡眠不足は、献血経験に有意な影響は認められなかった。しかし、献血にともなう副作用の予防や学校行事等による献血のタ

イミングを調整する上で必要なデータである。

ダイエットをしている学生は23%、朝食を週1回以上食べない学生は12%、50kg未満の学生は25%存在した。これらは献血に対してはマイナスに働き、副交感神経反射など有害反応の増加にもつながり、献血を進める上で注意が必要である。高校生の献血に際しては、事前の睡眠や食事摂取に十分な注意を促す必要がある。検診等で貧血を指摘された経験のある高校生は約17%あり、献血未経験群で多かった。ダイエットの行き過ぎに注意するとともに、貧血を早期に是正することで、献血も可能な体をつくる必要性が示唆される。

献血に関わる代表的な知識を調査した。献血の種類や方法、人工血液の存在、献血場所、献血で失われた血液の回復に要する時間、献血可能な年齢、血液には有効期限があること、血漿分画製剤の原料血液が海外に依存していること、献血によってウィルスが感染しないこと、等である。結果に示したように、これらを理解している高校生は少なく、献血経験者では有意に多いことが示された。献血を理解してもらうための教育がさらに必要であると考えられる。また、献血の副作用を軽減し、これを理解してもらう努力も必要とされる⁸⁾⁹⁾。アンケート中に記載されたフリーコメントとして、献血に関する教育に関し、高校生以前の早い時期から導入する方が良いとする意見は、重要であると考えられる。

献血についての関心度は、献血経験のある高校生で有意に高いことが示された。複数回献血は血液の安定供給上極めて重要であるとされ¹⁰⁾、初回献血者の繋ぎ止めが必要である¹¹⁾。この関心度の高まりは、初回高校生献血を推進していく上で重要なデータであると思われる。また、献血に際して提供されるサービスは、献血教育と併せて、初回献血の重要な契機となりうることを示された。

ボランティア経験者では未経験者に比較して献血率が高いことが示された。献血は社会への貢献への意欲の表れのひとつと理解される¹²⁾。自己の考え、目標そして社会的規範に照らして行われるとされる¹³⁾。ボランティアの経験率を高めることも重要な施策と思われる。一方、献血に際して、ボランティアをしてもよいとする高校生は約2/3あり、高校生献血を広めていく上で、有用なデータと考えられる。

今回のアンケート調査において高校へ出張献血が行われているにも拘らず記憶にない高校生が相当数いることが判明した。高校への広報活動、高校内における献血の広報活動に課題があり、これを改善する価値があると思われた。出張献血は献血自体への意識を高めるばかりでなく、献血に関わるボランティア意欲の向上にも有用であることが判った。前田らは、初回献

血の動機として、10 歳代では「高校に献血バスが来たから」が 47% と最も多く、高校への出張献血が 10 歳代の献血の動機づけとして優れるとしている¹⁴⁾。参加学校で献血に関する授業やセミナーを受けた記憶のある高校生は約 10% 足らずであったが、献血歴のある高校生は、受講した記憶が明らかに高かった。Hepfer ら¹⁵⁾は献血の必要性やリスクに関する情報の提供の重要性を指摘している。

献血に関する授業やセミナーの受講は献血行動に結びついている現れと理解され、様々な方法が試されている¹⁶⁾。今後、さらに有効な方法が検討されることが望まれる。教育を担当する学校側へのアプローチの重要性も報告されている¹⁷⁾。約半数の高校生が受講を望んでいることは、教育を提供する側も理解しておく必要があると思われる。教育現場で使用されうるパンフレットやビデオ等で、患者の視点からみた献血の重要性を事例として紹介することは、高校生の献血に対する意識の向上に効果的であると考えられる。

著者の COI 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

謝辞：本研究に協力いただいた下記の静岡県の高校に深謝いたします。

静岡市立高等学校、静岡英和女学院高等学校、静岡学園高等学校、静岡県立磐田南高等学校、静岡県立科学技術高等学校、静岡県立静岡高等学校、静岡県立静岡商業高等学校、静岡県立静岡城北高等学校、静岡県立静岡西高等学校、静岡県立静岡東高等学校、静岡県立清水西高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立清水南高等学校、静岡県立駿河総合高等学校、静岡県立浜北西高等学校、静岡県立浜名高等学校、静岡県立浜松大平台高等学校、静岡県立浜松北高等学校、静岡県立浜松工業高等学校、静岡県立浜松湖東高等学校、静岡県立浜松湖南高等学校、静岡県立浜松商業高等学校、静岡県立浜松城北工業高等学校、静岡県立浜松東高等学校、静岡県立浜松南高等学校、静岡聖光学院高等学校、東海大学付属静岡翔洋高等学校、浜松市立高等学校、浜松海の星高等学校、浜松日体高等学校

文 献

- 1) 日本赤十字社ホームページ：血液事業の現状 平成 26 年度統計表。 http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20151015_H26ketsuekijigyonogenjyo.pdf (2016 年 7 月現在)。
- 2) 厚生労働省ホームページ：献血者数の推移。 <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000063233.html> (2016 年 7 月現在)。
- 3) 厚生労働省ホームページ：平成 23 年度若年層献血意識調査結果報告書。 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000020ipe-att/2r98520000020j6a.pdf> (2016 年 7 月現在)。

- 4) 厚生労働省ホームページ：献血推進に係る新たな中期目標 献血推進 2020。 <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000070049.html> (2016 年 7 月現在)。
- 5) Masser BM, White KM, Hyde MK, et al: Predicting blood donation intentions and behavior among Australian blood donors: testing an extended theory of planned behavior model. *Transfusion*, 49: 320—329, 2009.
- 6) Wu Y, Glynn SA, Schreiber GB, et al; Retrovirus Epidemiology Donor Study (REDS) Group: First-time blood donors: demographic trends. *Transfusion*, 41: 360—364, 2001.
- 7) Takeshita A, Adachi M, Iwao N, et al: Increasing Plan for Blood Donor Recruitment and Retention in High School Students; Analyses from Recent Inquiry Surveys. *Blood*, 124: 5100, 2014.
- 8) 松尾秋子, 寺澤 崇, 山口佳代, 他：初回高校生献血における血管迷走神経反応 (VVR) 抑制への試み。血液事業, 35 : 639—642, 2013.
- 9) 貫田多恵子, 加賀幸子, 荒川町子, 他：血管迷走神経反応による転倒の要因の解析と対策。血液事業, 29 : 447—453, 2007.
- 10) Bagot KL, Murray AL, Masser BM: How Can We Improve Retention of the First-Time Donor? A Systematic Review of the Current Evidence. *Transfus Med Rev*, 30: 81—91, 2016.
- 11) Ownby HE, Kong F, Watanabe K, et al: Analysis of donor retern behavior. *Retrovirus Epidemiology Donor Study*. *Transfusion*, 39: 1128—1135, 1999.
- 12) Glynn SA, Kleinman SH, Schreiber GB, et al: Retrovirus Epidemiology Donor Study: Motivations to donate blood: demographic comparisons. *Transfusion*, 42: 216—225, 2002.
- 13) Lemmens KP, Abraham C, Hoekstra T, et al: Why don't young people volunteer to give blood? An investigation of the correlates of donation intentions among young nondonors. *Transfusion*, 45: 945—955, 2005.
- 14) 前田芳夫, 北園正人, 高附兼幸, 他：高校献血についての一考察。血液事業, 30 : 545—550, 2008.
- 15) Hupfer ME, Taylor DW, Letwin JA: Understanding Canadian student motivations and beliefs about giving blood. *Transfusion*, 45: 149—161, 2005.
- 16) Sarason IG, Sarason BR, Pierce GR, et al: Promotion of high school blood donations: testing the efficacy of a videotaped intervention. *Transfusion*, 32: 818—823, 1992.
- 17) 吉村博之, 藤崎美由紀, 稲富鈴子, 他：佐賀県の高等学校保健体育関係教員における献血思想の認識度調査結果。血液事業, 37 : 619—625, 2014.

SURVEY OF HIGH SCHOOL STUDENT ATTITUDES TO BLOOD DONATION

*Akihiro Takeshita*¹⁾, *Hiroaki Furumaki*¹⁾, *Takayoshi Asai*²⁾,
*Michiko Kajiware*³⁾, *Noriaki Iwao*⁴⁾ and *Kazuo Muroi*⁵⁾

¹⁾Transfusion and Cell Therapy, Hamamatsu University School of Medicine

²⁾Japanese Red Cross Chiba Blood Center

³⁾Department of Transfusion Medicine, Medical Hospital, Tokyo Medical and Dental University

⁴⁾Department of Hematology, Juntendo University Shizuoka Hospital

⁵⁾Division of Cell Transplantation and Transfusion, Jichi Medical University Hospital

Abstract:

Blood donor recruitment and retention in the younger generation is an important concern for an aging population in Japan. Successful recruitment of high school student donors will ensure long term supplies of blood. To enhance the effectiveness of this approach it is important to communicate the need for blood donation by high school students and conduct appropriate surveys. Anonymous surveys were designed for high school students, who answered of their own volition. The survey included 50 questions including lifestyle, knowledge of blood donation, efficacy of a campaign to recruit blood donors and previous education on blood donation in their school etc.

We obtained answers from 95.0% of 16,333 students surveyed. The proportion of male and female students was even. 7.7% of students had at least one experience of blood donation. The students often experienced feelings of fatigue, suffered from sleeplessness and tried dieting in their daily life, these could relate to adverse event. The study clarified that many students lacked sufficient information about blood donation and transfusion. Substantial time and effort must be devoted to educating the student population on the need for blood transfusion, as well as on the safety and risk factors associated with blood donation.

Keywords:

Blood donation, High School student, Questionnaire, Behavior, Intentions

©2016 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Journal Web Site: <http://yuketsu.jstmct.or.jp/>